

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		研究科の専攻の設置							
フリガナ設置者		コクリツダイガクホリジンシスウカダイガク 国立大学法人静岡大学							
フリガナ大学の名称		シズウカダイガクダイイン 静岡大学大学院（Graduate School, Shizuoka University）							
大学本部の位置		静岡県静岡市駿河区大谷836番地							
大学の目的		学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的		学校や地域の教育リーダーとして活躍できる高度な専門的職業人としての教員を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	教職大学院 14条特例の実施
	教育学研究科 [Graduate School of Education]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	教育実践高度化専攻 [Department of Advanced Practice in School Education]	2	45	—	90	教職修士（専門職）	令和2年4月 第1年次	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地	
	計		45	—	90				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		教育学研究科 教育実践高度化専攻（45）（平成31年4月事前伺い） 学校教育研究専攻（廃止）（△52） 教育実践高度化専攻（廃止）（△20） ※廃止する2専攻は、令和2年4月学生募集停止 総合科学技術研究科 工学専攻〔定員増〕（60）（令和2年4月）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
		90 科目	46 科目	11 科目	147 科目	46 単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	
	新設分	教育学研究科	人	人	人	人	人	人	人
		教育実践高度化専攻（専門職学位課程）	25 (25)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	64 (62)
		計	25 (25)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	— (—)
	既設分	人文社会科学研究科							
		臨床人間科学専攻（修士課程）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	11 (11)
		比較地域文化専攻（修士課程）	23 (25)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	35 (37)	0 (0)	1 (1)
		経済専攻（修士課程）	17 (17)	7 (8)	0 (0)	0 (0)	24 (25)	0 (0)	3 (3)

教 員 組 織 の 概 要	既 設 の 分	教育学研究科								
		共同教科開発学専攻（博士課程）		16 (17)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	19 (20)	0 (0)	1 (1)
		総合科学技術研究科								
		情報学専攻（修士課程）		30 (32)	20 (20)	12 (12)	4 (4)	66 (69)	0 (0)	90 (90)
		理学専攻（修士課程）		29 (32)	29 (29)	12 (12)	3 (3)	73 (76)	0 (0)	85 (85)
		工学専攻（修士課程）		68 (72)	83 (83)	6 (6)	16 (16)	173 (177)	0 (0)	81 (81)
		農学専攻（修士課程）		28 (28)	31 (32)	0 (0)	11 (11)	70 (71)	0 (0)	90 (90)
		光医学研究科								
		光医学共同専攻（博士課程）		7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	30 (30)
		自然科学系教育部								
		ナノビジョン工学専攻（博士課程）		10 (10)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	48 (48)
		光・ナノ物質機能専攻（博士課程）		22 (23)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	32 (33)	0 (0)	36 (36)
		情報科学専攻（博士課程）		28 (31)	12 (12)	5 (5)	2 (2)	47 (50)	0 (0)	35 (35)
		環境・エネルギーシステム専攻 （博士課程）		17 (17)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	39 (39)
		バイオサイエンス専攻（博士課程）		15 (17)	6 (6)	2 (2)	1 (0)	24 (26)	0 (0)	44 (44)
		計		220 (232)	188 (190)	30 (30)	35 (35)	473 (487)	0 (0)	— (—)
		合 計		239 (251)	197 (199)	33 (33)	35 (35)	504 (518)	0 (0)	— (—)
		教員以外の 職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計	
			事 務 職 員		222 (222) 人		271 (271) 人		493 (493) 人	
技 術 職 員			71 (71)		39 (39)		110 (110)			
図 書 館 専 門 職 員			13 (13)		10 (10)		23 (23)			
そ の 他 の 職 員			0 (0)		71 (71)		71 (71)			
計			306 (306)		391 (391)		697 (697)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	282,046 m ²	— m ²		— m ²		282,046 m ²			
	運 動 場 用 地	84,654 m ²	— m ²		— m ²		84,654 m ²			
	小 計	366,700 m ²	— m ²		— m ²		366,700 m ²			
	そ の 他	3,754,640 m ²	— m ²		— m ²		3,754,640 m ²			
	合 計	4,121,340 m ²	— m ²		— m ²		4,121,340 m ²			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
		183,084 m ² (183,084 m ²)	— m ² (— m ²)		— m ² (— m ²)		183,084 m ² (183,084 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設			
	144 室	115 室	169 室		9 室 (補助職員 0人)		4 室 (補助職員 0人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		教育学研究科教育実践高度化専攻			40 室					

図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書、学術雑誌、電子ジャーナル及び視聴覚資料は、研究科単位で特定不能なため、大学全体の数	
	教育学研究科 教育実践高度化専攻		1,207,700 [347,890] (1,208,500 [349,495])	20,495 [6,550] (20,500 [6,553])		5,684 [5,604] (5,683 [5,603])	7,718 (7,791)	0 (0)	0 (0)		
	計		1,207,700 [347,890] (1,208,500 [349,495])	20,495 [6,550] (20,500 [6,553])		5,684 [5,604] (5,683 [5,603])	7,718 (7,791)	0 (0)	0 (0)		
図書館			面積		閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数		大学全体	
			12,251 m ²		1,034			1,106,611			
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
			3,970 m ²		水泳プール、テニスコート、武道場、弓道場ほか						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—		
		共 同 研 究 費 等		—	—	—	—	—	—		
		図 書 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—		
		設 備 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要			—							
既設大学等の状況	大 学 の 名 称 静岡大学										平成24年度入学生より、人文学部から人文社会科学部へ学部名称変更 <

既設大学等の状況	理学部		240		960		1.01		
	数学科	4	38	—	152	学士 (理学)	0.96	昭和40年度	静岡市駿河区大谷836
	物理学科	4	48	—	192	学士 (理学又は学術)	0.96	〃	〃
	化学科	4	52	—	208	〃	0.88	〃	〃
	生物科学科	4	52	—	208	〃	0.89	平成18年度	〃
	地球科学科	4	50	—	200	〃	0.95	〃	〃
	工学部		550		2,200		1.03		
	機械工学科	4	168	—	672	学士 (工学又は学術)	1.03	平成 7年度	浜松市中区城北3-5-1
	電気電子工学科	4	110	—	440	学士 (工学)	1.04	〃	〃
	電子物質科学科	4	110	—	440	〃	1.02	平成25年度	〃
	化学バイオ工学科	4	112	—	448	学士 (工学又は学術)	1.03	〃	〃
	数理システム工学科	4	50	—	200	学士 (工学)	1.04	〃	〃
	物質工学科	4	—	—	—	〃	—	平成 7年度	〃
	システム工学科	4	—	—	—	〃	—	〃	〃
	農学部		185	3年次 10	760		1.05		
	生物資源科学科	4	115	3年次 7	474	学士 (農学又は学術)	1.04	平成28年度	静岡市駿河区大谷836
	応用生命科学科	4	70	3年次 3	286	学士 (農学)	1.07	〃	〃
	共生バイオサイエンス学科	4	—	—	—	〃	—	平成18年度	〃
	応用生物化学科	4	—	—	—	〃	—	平成元年度	〃
	環境森林科学科	4	—	—	—	〃	—	平成18年度	〃
	大学院人文社会科学研究科		36		72		0.89		
	臨床人間科学専攻	2	11	—	22	修士 (臨床人間科学)	0.85	平成15年度	静岡市駿河区大谷836
	比較地域文化専攻	2	10	—	20	修士 (文学)	0.90	平成 9年度	〃
	経済専攻	2	15	—	30	修士 (経済学)	0.93	平成17年度	〃

平成25年度より
学生募集停止

平成25年度より
学生募集停止

平成28年度より
学生募集停止

平成28年度より
学生募集停止

平成28年度より
学生募集停止

既設大学等の状況	大学院教育学研究科		76		156				
	学校教育研究専攻	2	52	—	104	修士 (教育学)	0.73	平成21年度	静岡市駿河区大谷836
	共同教科開発学専攻	3	4	—	12	博士 (教育学)	1.33	平成24年度	〃
	教育実践高度化専攻	2	20	—	40	教職修士 (専門職)	1.15	平成21年度	〃
	大学院総合科学技術研究科		479		958		1.14		
	情報学専攻	2	60	—	120	修士 (情報学)	1.12	平成27年度	浜松市中区城北3-5-1
	理学専攻	2	70	—	140	修士 (理学)	1.06	〃	静岡市駿河区大谷836
	工学専攻	2	262	—	524	修士 (工学)	1.25	〃	浜松市中区城北3-5-1
	農学専攻	2	87	—	174	修士 (農学)	0.90	〃	静岡市駿河区大谷836
	大学院工学研究科								
	事業開発マネジメント専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	平成18年度	浜松市中区城北3-5-1 平成27年度より 学生募集停止
	大学院光医工学研究科						1.00		
	光医工学共同専攻	3	5	—	10	博士 (光医工学)	1.00	平成30年度	浜松市中区城北3-5-1 平成30年度開設
	大学院自然科学系教育部		45		140		1.03		
	ナノビジョン工学専攻	3	10	—	33	博士 (学術又は工学)	0.62	平成18年度	浜松市中区城北3-5-1 平成30年度入学 定員減(3人)
	光・ナノ物質機能専攻	3	9	—	30	博士 (学術、理学又は工学)	0.72	〃	〃 平成30年度入学 定員減(3人)
	情報科学専攻	3	11	—	32	博士 (学術、情報学、理学又は工学)	1.29	〃	〃 平成30年度入学 定員増(1人)
	環境・エネルギーシステム専攻	3	7	—	21	博士 (学術、理学又は工学)	1.23	〃	静岡市駿河区大谷836
	バイオサイエンス専攻	3	8	—	24	博士 (学術、理学、工学又は農学)	1.53	〃	〃

附属施設の概要	(附属学校) 名称：教育学部附属幼稚園 目的：義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、次に掲げる任務を果たすことを目的とする。 ・教育学部における幼児の保育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること ・保育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと 所在地：静岡県静岡市葵区大岩町1番10号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 5,987㎡、建物 1,020㎡	
	名称：教育学部附属静岡小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次に掲げる任務を果たすことを目的とする。 ・教育学部における児童の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること ・小学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと 所在地：静岡県静岡市葵区駿府町1番94号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 14,223㎡、建物 7,136㎡	
	名称：教育学部附属浜松小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次に掲げる任務を果たすことを目的とする。 ・教育学部における児童の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること ・小学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと 所在地：静岡県浜松市中区布橋3丁目2番1号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 24,170㎡、建物 4,614㎡	
	名称：教育学部附属静岡中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次に掲げる任務を果たすことを目的とする。 ・教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること ・中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと 所在地：静岡県静岡市葵区駿府町1番86号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 18,127㎡、建物 6,293㎡	
	名称：教育学部附属浜松中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次に掲げる任務を果たすことを目的とする。 ・教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること ・中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと 所在地：静岡県浜松市中区布橋3丁目2番2号 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 25,884㎡、建物 5,667㎡	
	名称：教育学部附属島田中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次に掲げる任務を果たすことを目的とする。 ・教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たること ・中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと 所在地：静岡県島田市中河町169 設置年月：昭和26年4月改称 規模等：土地 23,214㎡、建物 5,285㎡	

附属施設の概要

名称：教育学部附属特別支援学校 目的：知的障害者に対して、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けるとともに、次に掲げる任務を有する。 ・知的障害者教育の理論及び実際に関する研究を行い教育界の参考に供する。 ・学生の実習及び介護等体験を指導する。 所在地：静岡県静岡市葵区大岩町1番15号 設置年月：昭和49年4月（平成19年4月改称） 規模等：土地 22,314㎡、建物 3,732㎡
（農場，演習林） 名称：農学部附属地域フィールド科学教育研究センター 目的：持続型農林業の確立及び森林・水圏環境の保全についてのフィールド科学に関する教育研究を行うとともに、地域社会の発展及び国際社会に貢献することを目的とする。 所在地：（持続型農業生態系部門藤枝フィールド） 静岡県藤枝市仮宿63 （森林生態系部門天竜フィールド（上阿多古）） 静岡県浜松市天竜区西藤平1623の1 （森林生態系部門南アルプスフィールド（中川根）） 静岡県榛原郡川根本町元藤川298の7 （水圏生態系部門用宗フィールド） 静岡県静岡市駿河区用宗2丁目28 設置年月：平成14年4月 規模等：（持続型農業生態系部門藤枝フィールド） 土地 137,263㎡、建物 4,239㎡ （森林生態系部門天竜フィールド（上阿多古）） 土地 608,776㎡、建物 638㎡ （森林生態系部門南アルプスフィールド（中川根）） 土地 2,592,890㎡、建物 307㎡ （水圏生態系部門用宗フィールド） 土地 3,346㎡、建物 479㎡
（その他） 名称：工学部次世代ものづくり人材育成センター 目的：独創性に富んだ科学技術を創造する人材養成のための教育、創造的な基盤研究・研究開発、社会に開かれた「知」の拠点とした社会地域連携を行うことを目的とする。 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：平成22年4月 規模等：建物 2,887㎡
名称：電子工学研究所 目的：電子工学に関する学理及びその応用の研究を行うこと並びに大学の教員その他の者で研究所の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者に利用させることを目的とする。 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：昭和40年4月 規模等：土地 9,608㎡、建物 4,162㎡
名称：グリーン科学技術研究所 目的：グリーン科学に関する学理及びその応用の研究を行うことを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836、静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：平成25年4月 規模等：建物 大谷総合研究棟（5,658㎡）及び城北総合研究棟（9,408㎡）の一部を使用
名称：大学教育センター 目的：教養教育と学部専門教育の有機的連携を図り、授業内容・方法及び教育組織に対する不断の点検・改善を行うこと並びに教養教育を効果的かつ円滑に実施することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成16年4月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用

附属施設の概要

名称：学生支援センター 目的：全学的立場からキャリアサポート、学生相談、学生生活支援及び障がい学生支援の企画・実施を行い、もって本学の学生支援活動の充実発展に寄与することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成22年12月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用
名称：全学入試センター 目的：静岡大学の入学者選抜に関する企画、広報及びデータ分析等を専門的に調査研究し、各部局で実施する入学試験を専門的立場から支援し、静岡大学における円滑な入学者選抜の実施に寄与することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成16年4月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用
名称：情報基盤センター 目的：静岡大学の情報戦略に基づき、全学情報基盤システムの研究開発及び運用支援を一元的に行うことを目的とする。 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1，静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成21年4月 規模等：建物 工学部7号館（3,270㎡）、創造科学技術大学院棟（2,412㎡）及び共通教育L棟（5,012㎡）の一部を使用
名称：防災総合センター 目的：地域連携を通じ、静岡大学における防災教育を多面的に展開させるとともに、防災科学研究、防災ボランティア活動支援及び災害時の危機管理能力を組織的に発展させ、地域の防災体制の向上に資することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成20年4月 規模等：建物 大学会館（2,452㎡）の一部を使用
名称：浜松キャンパス共同利用機器センター 目的：静岡大学の学内共同教育研究施設として、各種大型評価・分析機器等を利用する教育、研究及び企業等からの試験委託の用に供するとともに、関連技術の研究・開発等を行い、もって本学の教育研究の進展及び産学連携活動の推進に資することを目的とする。 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：平成22年4月 規模等：建物 城北総合研究棟（9,408㎡）の一部を使用
名称：教職センター 目的：静岡大学における教員養成等カリキュラムの管理・運営体制の整備を行い、組織的指導体制を確立することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成27年4月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用
名称：地域法実務実践センター 目的：静岡大学における実践的法学教育を支援するとともに、地域の法実務の中核的研究及び研修支援機関として、法律系人材の養成、法教育の充実発展及び地域の法政策に関する貢献活動を推進することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成28年4月 規模等：建物 法科大学院棟（830㎡）の一部を使用
名称：地域創造教育センター 目的：静岡大学において地域社会との教育連携の中核的役割を担い、地域志向を持った人材を育成するとともに、教育研究を通じて地域社会が抱える課題解決に寄与することにより、地域社会の発展に貢献することを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成29年10月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）の一部を使用
名称：イノベーション社会連携推進機構 目的：静岡大学における産学連携と地域連携に関わる戦略を全学的かつ一体的な観点から確立し、静岡大学の教育研究成果を社会に積極的に還元し社会連携を推進することにより、地域等の発展に資することを目的とする。 所在地：静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：平成24年4月 規模等：建物 2,627㎡

附属施設の概要	名称：全学教育基盤機構 目的：静岡大学における教育、学生支援、入学者選抜及び国際交流に関する基本方針及び主要施策その他教育等に関する事項について、全学的な観点から検討し、その結果に基づき、静岡大学の教育等の質の向上及び一層の推進を図ることを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836 設置年月：平成27年4月 規模等：－	
	名称：国際連携推進機構 目的：静岡大学における国際連携に関わる戦略を全学的な観点から検討し、静岡大学の理念及び基本方針に沿った総合的かつ効果的な国際連携の一層の推進を図ることを目的とする。 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷836，静岡県浜松市中区城北3-5-1 設置年月：平成29年10月 規模等：建物 共通教育A棟（6,346㎡）及び工学部7号館（3,270㎡）の一部を使用	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
（教育学研究科教育実践高度化専攻）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	編成・課程の実施の	新しい学習観とカリキュラム・マネジメント	1前	2		○			1					
	教科等の指導方法実践的な	求められる授業とその開発	1前	2		○				1				
		教師の授業力量形成と校内授業研究の開発	1前	2		○			1					
	生徒指導・教育相談	生徒発達支援概論	1前	2		○			1	1				兼2 オムニバス共同（一部）
	学級経営・学校経営	学級経営の課題と学校	1前	2		○			2					共同
		学校づくりの理論と実践	1前	2		○			2					共同
	学校教育と教員の在り方	これからの社会変化と未来の学校像	1前	2		○			2					兼1 オムニバス共同（一部）
		アクションリサーチの理論と実践	1前	2		○			1					集中
		教職キャリアデザイン〔基礎〕	1前	2		○			1		1			共同 集中
		教職キャリアデザイン〔発展〕	1前	2		○			1	1				共同 集中
	独自領域	特別支援教育のシステムと方法	1前	2		○			1					
	小計（11科目）		—	14	8	0	—			9	3	1	0	0 兼3

実習科目				基盤実習	1前		3				○	6	1				共同	
				実践的指導力高度化実習Ⅰ	1後		3				○	3					共同	
				実践的指導力高度化実習Ⅱ	2通		4				○	3				共同 集中		
				訪問実習	1前		2				○	6	1			共同		
				学校改善力高度化実習Ⅰ	1後		3				○	3				共同		
				学校改善力高度化実習Ⅱ	2通		5				○	3				共同 集中		
				特別支援教育基盤実習	1前		3				○	2	1			共同		
				特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅰ	1後		3				○	2	1			共同		
				特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅱ	2通		4				○	2	1			共同 集中		
				特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅰ	1後		3				○	2	1			共同		
				特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅱ	2通		5				○	2	1			共同		
				小計（11科目）				—	0	38	0	—				8	2	0
分野科目	教育方法分野	分野必修科目	校内授業研究の応用と評価	1後		2		○			2						共同	
			資質・能力を育む授業デザインの開発	1後		2		○				1						
			授業と学習のメカニズム	1後		2		○							兼1			
	自由選択科目	マイクロ・ティーチングによる授業実践演習Ⅰ	2前		2			○			1							
		マイクロ・ティーチングによる授業実践演習Ⅱ	2前		2			○			1							
		学校研究コンサルティングⅠ	2前		2		○			2				共同				
		学校研究コンサルティングⅡ	2前		2		○			2				共同				
		教育実践の開発と評価	2後		2		○			2	1			共同				
	教科教育分野	分野必修科目	教科横断的教育課程論	1後		2		○			6	4	1			オムニバス		
			教科学習論（人文社会系）	1後		2		○			4		1		兼1	オムニバス 共同		
			教科学習論（自然系）	1後		2		○			2	2			オムニバス 共同（一部）			
			教科学習論（創造系）	1後		2		○			1	2			兼3	オムニバス 共同（一部）		
			教材開発論（国語）	1後		2		○							兼4	共同		
			教材開発論（社会科）	1後		2		○							兼4	共同		
			教材開発論（数学）	1後		2		○			2					共同		
			教材開発論（理科）	1後		2		○			1				兼2	共同		
			教材開発論（音楽）	1後		2		○			1				兼2	共同		
			教材開発論（美術）	1後		2		○			1	1			兼4	共同		

分野科目	分野必修科目	教材開発論（保健体育）	1後	2	○				1								
		教材開発論（技術科）	1後	2	○			1		1				兼4	共同		
		教材開発論（家庭科）	1後	2	○			1	1					兼3	共同		
		教材開発論（英語）	1後	2	○			1	1					兼2	共同		
	教科教育分野	自由選択科目	教科内容論（国語）	1後	2	○									兼4	共同	
			教科内容論（社会科）	1後	2	○									兼7	共同	
			教科内容論（数学）	1後	2	○									兼5	共同	
			教科内容論（理科）	1後	2	○									兼4	共同	
			教科内容論（音楽）	1後	2	○			1						兼2	共同	
			教科内容論（美術）	1後	2	○			1	1						共同	
			教科内容論（保健体育）	1後	2	○				1					兼4	共同	
			教科内容論（技術科）	1後	2	○			1		1				兼4	共同	
			教科内容論（家庭科）	1後	2	○			1	1					兼3	共同	
			教科内容論（英語）	1後	2	○									兼4	共同	
			教科指導論（国語）	1後	2	○			2							共同	
			教科指導論（社会科）	1後	2	○			1		1				兼2	共同	
		教科指導論（数学）	1後	2	○			2							共同		
		教科指導論（理科）	1後	2	○			1						兼2	共同		
		教科指導論（音楽）	1後	2	○				1					兼1	共同		
		教科指導論（美術）	1後	2	○			1	1						共同		
		教科指導論（保健体育）	1後	2	○				1					兼4	共同		
		教科指導論（技術科）	1後	2	○			1		1				兼4	共同		
		教科指導論（家庭科）	1後	2	○			1	1					兼3	共同		
		教科指導論（英語）	1後	2	○			1						兼3	共同		
		教科内容演習 A（国語）	2前	2		○								兼4	共同		
		教科内容演習 A（社会科）	2前	2		○		1		1				兼7	共同		
		教科内容演習 A（数学）	2前	2		○								兼5	共同		
		教科内容演習 A（理科）	2前	2		○								兼5	共同		
		教科内容演習 A（音楽）	2前	2		○		1	1					兼3	共同		
		教科内容演習 A（美術）	2前	2		○								兼4	共同		

分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科内容演習 A (保健体育)	2前	2	○	1	兼1 共同
			教科内容演習 A (技術科)	2前	2	○	1 1	兼4 共同
			教科内容演習 A (家庭科)	2前	2	○	1 1	兼3 共同
			教科内容演習 A (英語)	2前	2	○		兼4 共同
			教科内容演習 B (国語)	2後	2	○		兼4 共同
			教科内容演習 B (社会科)	2後	2	○	1 1	兼7 共同
			教科内容演習 B (数学)	2後	2	○		兼5 共同
			教科内容演習 B (理科)	2後	2	○		兼5 共同
			教科内容演習 B (音楽)	2後	2	○	1 1	兼3 共同
			教科内容演習 B (美術)	2前	2	○		兼4 共同
			教科内容演習 B (保健体育)	2後	2	○		兼3 共同
			教科内容演習 B (技術科)	2後	2	○	1 1	兼4 共同
			教科内容演習 B (家庭科)	2後	2	○	1 1	兼3 共同
			教科内容演習 B (英語)	2後	2	○		兼4 共同
			教科教育専門研究 A (国語)	2前	2	○	1	兼4 共同
			教科教育専門研究 A (社会科)	2前	2	○	1 1	兼7 共同
			教科教育専門研究 A (数学)	2前	2	○		兼5 共同
			教科教育専門研究 A (理科)	2前	2	○	1 1	兼8 共同
			教科教育専門研究 A (音楽)	2前	2	○	1 1	兼3 共同
			教科教育専門研究 A (美術)	2前	2	○		兼4 共同
			教科教育専門研究 A (保健体育)	2前	2	○	1	
			教科教育専門研究 A (技術科)	2前	2	○	1 1	兼4 共同
			教科教育専門研究 A (家庭科)	2前	2	○	1 1	兼3 共同
			教科教育専門研究 A (英語)	2前	2	○	1	兼3 共同
			教科教育専門研究 B (国語)	2後	2	○	1	兼4 共同
			教科教育専門研究 B (社会科)	2後	2	○	1 1	兼7 共同
			教科教育専門研究 B (数学)	2後	2	○		兼5 共同
			教科教育専門研究 B (理科)	2後	2	○	1 1	兼8 共同
			教科教育専門研究 B (音楽)	2後	2	○	1 1	兼3 共同
			教科教育専門研究 B (美術)	2前	2	○		兼4 共同

分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科教育専門研究B（保健体育）	2後		2			○								兼5	共同
			教科教育専門研究B（技術科）	2後		2			○		1		1				兼4	共同
			教科教育専門研究B（家庭科）	2後		2			○		1	1					兼3	共同
			教科教育専門研究B（英語）	2後		2			○			1					兼3	共同
	生徒発達支援分野	分野必修科目	学校心理学の理論と方法	1後		2			○		1							
			臨床心理学の理論と方法	1後		2			○			1						
			発達心理学の理論と実際	1後		2			○								兼1	
		自由選択科目	学習支援の理論と実際	1後		2			○								兼1	
			心理アセスメントの理論と実際	2前		2			○			1						
			学校コンサルテーションの理論と実際	2前		2			○		1							
			生徒指導・教育相談の理論と実際	1後		2			○		2							共同
	特別支援教育分野	分野必修科目	発達障害の理解と対応	1後		2			○								兼1	
			特別支援教育の現状と課題Ⅰ	1後		2			○								兼1	
			ユニバーサルデザイン授業論	1後		2			○			1						
		自由選択科目	障害児の認知発達とその支援	1後		2			○		1							
			発達臨床・特別支援の実践から学ぶ	2前		2			○								兼1	
			特別支援教育の現状と課題Ⅱ	2前		2			○								兼1	
			特別支援教育における授業デザイン	2前		2			○			1						
	幼児教育分野	分野必修科目	幼児教育の現状と課題	1後		2			○		1							
			乳幼児音楽概論	1後		2			○								兼1	
			乳幼児の権利と幼児教育・保育	1後		2			○		1							
		自由選択科目	子どもの育ちと文化	2前		2			○		1							
			乳幼児期の保育と音楽教育	2前		2			○								兼1	
			幼児教育課程とESD	2前		2			○		1							
	養護教育分野	分野必修科目	学校保健の現状と課題	1後		2			○								兼1	
			学校における危機管理	1後		2			○		2						兼1	オムニバス 共同（一部）
			養護教諭の教育実践の実際と課題	1後		2			○		1							
		自由選択科目	養護教諭の行うアセスメント方法と課題	2前		2			○		1						兼1	オムニバス 共同（一部）
			病気の子どもの理解と養護教諭の対応	2前		2			○		1						兼1	オムニバス
			養護教諭が行う健康教育の実践と課題	2後		2			○		1						兼1	オムニバス

分野科目		健康相談の実際と課題	2前	2	○			2					兼1	オムニバス
	現代的教育課題分野	分野必修科目	現代的教育課題への道標	1後	2	○		1	1				兼5	オムニバス
			リフレクティブ・シンキング演習	1後	2		○	1	1				兼5	共同
			クリエイティブ・シンキング演習	1後	2		○	1	1				兼5	共同
	自由選択科目	国際理解教育	2前	2	○								兼1	共同
		道徳	2前	2	○								兼2	
		ICTによる学習環境の構築	1後	2	○			1						
		社会参加によるESD実践	2前	2	○								兼1	
		対話的な学びと言語活動	2前	2	○		1							
	学校組織分野	分野必修科目	教育政策の流れと学校論	1後	2	○		3		1				共同
			教育法制度の理論と実際	1後	2	○		1		1				共同
			学校改革の理論とリーダーシップ	2前	2	○		2						共同
			成人の学習の事例と理論	2前	2	○			1					
			学校と地域の協働	1後	2	○			1					
			夢の学校づくり・学校改善への実践論	2後	2	○		2		1				共同
		小計（123科目）	－	0	246	0	－	25	12	3	0	0	兼63	－
課題研究		課題研究Ⅰ	2前	2		○	25	12	3			兼64		
		課題研究Ⅱ	2後	2		○	25	12	3			兼64		
		小計（2科目）	－	4	0	0	－	25	12	3	0	0	兼64	－
合計（147科目）			－	18	292	0	－	25	12	3	0	0	兼64	－
学位又は称号		教職修士（専門職）		学位又は学科の分野			教員養成関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
【修了要件】 《教育実践力育成コース》 共通科目18単位、実習科目10単位、分野科目のうち所属する分野の分野必修科目6単位、分野科目のうち自由選択科目8単位以上、課題研究4単位の、合計46単位以上を修得すること。 《教育実践開発コース》 共通科目18単位、実習科目10単位、分野科目のうち所属する分野の分野必修科目6単位、分野科目のうち自由選択科目8単位以上、課題研究4単位の、合計46単位以上を修得すること。 《学校組織開発コース》 共通科目18単位、実習科目10単位、分野科目のうち所属する分野の分野必修科目12単位、分野科目のうち自由選択科目2単位以上、課題研究4単位の、合計46単位以上を修得すること。 【履修方法】 共通科目の一部の科目及び実習科目について、コースにより以下のとおり履修科目を指定する。 《教育実践力育成コース》							1学年の学期区分		2学期					
							1学期の授業期間		15週					
							1時限の授業時間		45分					

・共通科目のうち、学級経営及び学校経営に関する領域については「学級経営の課題と学校」を履修し、学校教育と教員の在り方に関する領域については「これからの社会変化と未来の学校像」及び「アクションリサーチの理論と実践」のほか「教職キャリアデザイン〔基礎〕」を履修すること。

・実習科目は、「基盤実習」「実践的指導力高度化実習Ⅰ」「実践的指導力高度化実習Ⅱ」を履修すること。

ただし、特別支援学校教諭専修免許状取得希望者については、「特別支援教育基盤実習」「特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅰ」「特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅱ」を履修すること。

《教育実践開発コース》

・共通科目のうち、学級経営及び学校経営に関する領域については「学校づくりの理論と実践」を履修し、学校教育と教員の在り方に関する領域については「これからの社会変化と未来の学校像」及び「アクションリサーチの理論と実践」のほか「教職キャリアデザイン〔発展〕」を履修すること。

・実習科目は、「訪問実習」「学校改善力高度化実習Ⅰ」「学校改善力高度化実習Ⅱ」を履修すること。

ただし、特別支援学校教諭専修免許状取得希望者については、「訪問実習」「特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅰ」「特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅱ」を履修すること。

《学校組織開発コース》

・共通科目のうち、学級経営及び学校経営に関する領域については「学校づくりの理論と実践」を履修し、学校教育と教員の在り方に関する領域については「これからの社会変化と未来の学校像」及び「アクションリサーチの理論と実践」のほか「教職キャリアデザイン〔発展〕」を履修すること。

・実習科目は、「訪問実習」「学校改善力高度化実習Ⅰ」「学校改善力高度化実習Ⅱ」を履修すること。

ただし、特別支援学校教諭専修免許状所得希望者は、「訪問実習」「特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅰ」「特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅱ」を履修すること。

（履修科目の登録の上限：36単位（年間））

教 育 課 程 等 の 概 要															
(教育学研究科教育実践高度化専攻【既設】)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 科目	新学習指導要領とカリキュラム経営	1 通	2				○							兼 1	
	目指すべき学力とその評価	1 前	2				○		1	1				兼 2	
	授業と学習のメカニズム	1 前	2				○		1	2					
	授業形態の特質と選択	1 前	2				○			2					
	子どもの姿と生徒指導の今日的課題	1 前	2				○		3	1					
	子ども理解と学校教育相談の在り方	1 前	2				○		3	1					
	学級経営の実践と課題	1 後	2				○		3	1					
	学校経営の実践と課題	1 前	2				○		3	1	1				
	学校と地域の協働	1 前	2				○		3	1	1				
	教職実践研究方法論	1 通	2				○		10	4	1				
	特別支援教育のシステムと方法	1 前	2				○		2						
	小計 (11科目)	—	22	0	0		—		10	4	1			兼 3	
選 択 科 目	学校組織開発領域科目													兼 2	
	教育政策の流れと学校論	1 後		2			○		3	1	1				兼 1
	学校の危機管理の実践と課題	1 後		2			○		3	1	1				
	学校を動かすミドルリーダーの在り方と実践	2 前		2			○		3	1	1				
	成人の学習の事例と理論	2 前		2			○		1	1					
	特色あるカリキュラム・マネジメントの実践と課題	2 通		2			○								
	夢の学校づくり・学校改善への実践論	2 後		2			○		3	1	1				
	学校組織開発課題研究	2 通		2			○		3	1	1			兼 3	
	小計 (7 科目)	—	0	14	0		—		3	1	1				
	教育方法開発領域科目													兼 1 兼 2	
	授業と学習の新たな展開	1 後		2			○		2	2					
	授業分析と校内研修の新たな展開	1 後		2			○		2	2					
	学校に応じた教育実践の評価	2 後		2			○		2	2					
	授業デザインとその開発・評価	2 前		2			○			2					
	教材作成と授業形態	2 前		2			○		1	1					
	学校に応じた教育実践の開発	2 後		2			○		2	1					
	教育方法開発課題研究	2 通		2			○		1	2				兼 1	
	小計 (7 科目)	—	0	14	0		—		2	2				兼 2	
	生徒指導支援領域科目														兼 1 兼 2
	子どもが苦戦する諸問題の理解と教師の対応	1 後		2			○		2	1					
子ども同士の人間関係を作るグループアプローチの開発	1 後		2			○		3	1						
子どもが安心感を実感するための教師の関わり	2 前		2			○		3	1						
教師が苦戦する諸問題への対応	2 前		2			○		3	1						
子ども支援のための他者・他機関との関わり	2 後		2			○		3	1						
生徒指導支援課題研究	2 通		2			○		3	1						
小計 (6 科目)	—	0	12	0		—		3	1						
特別支援教育領域科目														兼 1 兼 1 兼 1 兼 1	
特別支援教育の現状と課題	1 前		2			○									
障害児の認知発達とその支援	1 後		2			○		1							
特別支援教育における授業づくり	1 後		2			○									
特別支援教育コーディネーターの理論と実践	2 前		2			○		2							
障害児臨床の視点と方法	2 前		2			○		1							
発達障害の理解と対応	1 後		2			○		1							
特別支援教育課題研究	2 通		2			○		2							
小計 (7 科目)	—	0	14	0		—		1	1					兼 3	
領域横断科目	教職キャリア基礎Ⅰ	1 通		2			○		10	4	1				
	教職キャリア基礎Ⅱ	2 通		2			○		10	4	1				
	小計 (2 科目)	—	0	4	0		—		10	4	1				

実 習 科 目	基盤実習	1 通	3				○	10	4	1				
	学校組織開発領域別実習	1 後		3			○	3	1	1				
	教育方法開発領域別実習	1 後		3			○	2	1					
	生徒指導支援領域別実習	1 後		3			○	3	1					
	特別支援教育領域別実習	1 後		3			○	2						
	学校改善力育成実習	2 通		4			○	10	4	1				
	学校改善力高度化実習	2 通		4			○	10	4	1				
小計（7 科目）		—	7	20	0	—		10	4	1				
合計（4 7 科目）		—	29	19	0	—		10	4	1			兼9	
学位又は称号		教職修士（専門職）		学位又は学科の分野			教員養成関係							

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科教育実践高度化専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	教育課程の編成・実施	昭和33年に告示された学習指導要領から平成29年に告示された新学習指導要領までの歴史的変遷の中におけるナショナルスタンダードとしての意義や特長、カリキュラムポリシーの観点からの検討を行う。また、平成29年告示の新学習指導要領を対象に、新学習指導要領の求める教育目標・指導方法・評価について学ぶ。また、それを実現するための授業とカリキュラム・マネジメントの課題を理解する。カリキュラム・マネジメントに関しては、管理職レベル、教務主任をはじめとする分掌長レベル、学級担任、教科担任レベルの3層に区分しながらその理論や実施方法について検討を行っていく。さらに、その区分からカリキュラム・マネジメントを効果的に実施するための学校組織体制の開発について検討していく。	
	求められる授業とその開発	教師は、授業設計段階（授業デザイン）において、授業目標、授業内容、教材、学習指導法、学習活動、学習形態、メディア、学習時間の配分などの各授業構成要素を決定しなければならない。さらに、生徒の実態などを想定しながら最大限に効果を期待して授業デザインを行っている。本授業においては、これらの授業デザイン段階における教師の意思決定や授業方略について先行研究を参照しながら検討を行う。また、ベテラン教師の授業実践のVTRを活用し、授業実践過程における生徒の学習状況の把握方法、授業計画の遂行・変更、発問の内容・時期などの意思決定について精緻に分析を行い整理する。さらに、実習校における授業研究から授業デザイン、実践過程における教師の意思決定について実証的に検討を行うことで質的な充実を図る。また、新学習指導要領の求める授業改善のポイント「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインについて、その視点から基礎理論と実践を併せて検討していく。	
	教科等の実践的な指導方法	校内研修において、学校が抱える課題の解決に向かって、教職員が共同的・組織的に、授業等の教育実践を計画・実施・評価する営みが適切に実施されることにより、教師が専門性を高め、力量を高めることが可能となる。本授業においては、最初に校内研修のもつ今日的意義や普遍的価値について検討する。次に、授業研究を中核に位置づけた校内研修の実施に関して、テーマ設定・方法論・推進体制・評価方法等について取り扱い、具体的な方略について取り扱う。続いて、全国レベルで校内研修の実績のある小学校・中学校の事例を取り扱い、分析と検討を行う。また、現職大学院生の在籍校の校内研修の現状分析をリサーチ・検討を行うことで校内研修の価値の相対化を図り、課題の把握、改善の方向を確認していく。授業と平行して学校実習が同時に実施されるので実習先の校内研修の分析も併せて取り扱うことで質的な充実を図る。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	生徒指導・教育相談 生徒発達支援概論	生徒指導、発達・学習支援上の様々な課題について、具体的な取り組みとともに、心理学の様々な領域の理論と方法を紹介し、エビデンスに基づいた生徒指導、発達・学習支援を実践する力の獲得を目指す。講義はオムニバス形式で行う。 (オムニバス方式／全15回) (66 小林敬一／3回) 1対1場面の学習指導、授業での学習指導を心理学的観点からデザインするための基本的考え方や理論を理解する。 (13 小林朋子／3回) 学校心理学の基本的な考え方や、心理教育的援助サービスの内容や方法について理解を深める。 (22 井出智博／3回) 臨床心理学及びカウンセリングの理論を概観し、生徒指導・教育相談場面における相談対応の理論と姿勢を身に付ける。 (103 古見文一／3回) 発達心理学・発達科学の理論を概観し、各発達段階における子どもの認知・社会性に関する能力を正確に捉え、発達支援につなげる能力を身につける (13 小林朋子・22 井出智博・66 小林敬一・103 古見文一／3回) (共同) オリエンテーション、グループ討議、まとめ	オムニバス方式・共同 (一部)
	学級経営・学校経営 学級経営の課題と学校	【学卒】学級経営の現状や今日的課題について整理し、今必要な学級経営の姿に向けての実践力を身につける。基盤実習で観察した学級や子どもの現状についてディスカッションを通じて理解した上で、子どもの安心感が実感できる学級経営の在り方を共に見つけていく。 (37 鈴木 秀志・38 伊藤 公介)	共同
	学級経営・学校経営 学校づくりの理論と実践	【現職】今後の社会変化を念頭におき、学校づくりはどのような視点から行われるべきかについて基本的な考え方を身につける。教育法規や教育委員会制度の基本、教育施策の動向、校長のビジョン形成とリーダーシップについて理論的・実践的に探究する。 (3 武井 敦史・39 小岱 和代)	共同
	学校教育と教員の在り方 これからの社会変化と未来の学校像	子どもや学校を取り巻く社会の変化と課題を取り上げ、それに対応して学校がどう変わっていくか、変わっていかねばならないかを考える。グローバル化する社会において求められる資質・能力を育成する教育方法、ESDなどの現代的な教育課題への対応力、子どもの多様化に応じた発達を支える学級経営や生徒指導、変化に向き合う学校経営等に加え、人工知能やデータサイエンスによる社会の変化や教育への応用など、各領域の専門分野をオムニバスで進め、現状と課題への実践的な対応について検討する。 (オムニバス方式／全15回) (63 梅澤 収／4回) Society5.0などにおける社会の具体的な変化を取り上げ、それに対して教育行政や学校がどのように対応していくべきかを考える。 (39 小岱 和代／5回) 支援が必要な児童生徒の増加と多様化の実態を示し、学校がどのように課題に向き合うかを考える。 (1 村山 功／4回) 人工知能の発展やデータサイエンスの活用によって社会や教育がどのように変化するかを理解すると同時に、教育ビッグデータの活用について具体例を通して学ぶ。 (1 村山 功・39 小岱 和・63 梅澤 収／2回) (共同) イントロダクション、まとめ (討論会)	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	学校教育と教員の在り方	アクションリサーチの理論と実践	外部の研究者ではなく教育に携わる教師が、自らの教育実践を対象として実践的な研究を進めていくことができるように、アクションリサーチについて学ぶ。観察や実験などの研究方法と比較したアクションリサーチの特徴を理解し、どのような課題・対象に対してアクションリサーチが有効であるか判断できるようにする。さらに、自分自身のテーマを深めていくために先行実践や先行研究をデータベース等を用いて探す方法、実践の結果を分析・評価するために必要な測定方法と統計的な分析方法、教育実践の検討に不可欠な質的データの扱いについて学習する。この学習を1年後期や2年の実習に活かしていく。	
		教職キャリアデザイン [基礎]	【学卒】教職大学院では、自分の目指す教職像を自覚し、その実現のために必要な力を計画的に身につけていくことが求められている。学卒院生を対象とするこの科目では、自分の小・中・高校での体験や学部での教育実習等をふり返りながら、自分が目指す教員像を具体的に描き出していく。その上で、教職の制度的な側面を理解しつつ、生徒指導・教育相談・道徳教育・特別活動等について、初任者教員に必要な知識を得て、教員としての心構えを養う。また、目指す教員像に向けて主体的に学習していけるよう、教職大学院における2年間の学びの見通しを持つ。 (5 島田 桂吾・40 吉澤 勝治)	共同
		教職キャリアデザイン [発展]	【現職】教職大学院では、自分の目指す教職像を自覚し、その実現のために必要な力を計画的に身につけていくことが求められている。現職院生を対象とするこの科目では、これまでの教職経験をふり返り、その歩みを俯瞰的に捉えることで、教職における次のステップを見通す。そのための手がかりとして、社会環境の変化に伴って教職がどのように変わっていくかを調査・検討する。また、目指す教員像に向けて主体的に学習していけるよう、教職大学院における2年間の学びの見通しを持つ。 (4 渋谷 かさね・40 吉澤 勝治)	共同
	独自領域	特別支援教育のシステムと方法	①特別支援教育の制度や仕組みに関する基本的な事項を理解する。②特別支援学校や特別支援学級、通級による指導の制度や対象とする児童生徒、教育の実践について理解する。③インクルーシブ教育システムや合理的配慮など特別支援教育に関わる今日的な課題について理解する。④発達障害のある児童生徒に関する理解を深め、具体的な支援方法を知る。	
実習科目		基盤実習	高度な実践的指導力形成の基礎となる経験を、主として観察を通して身につける。「共通科目」との往還を図り、教育課程、教育方法、生徒指導、学級・学校経営、教職キャリア、特別支援教育等の視点に基づいて、経験を省察して知見を得ると同時により深い観察を可能とする。 (1 村山 功・2 石上 靖芳・3 武井 敦史・25 町 岳・37 鈴木 秀志・38 伊藤 公介・40 吉澤 勝治)	共同
		実践的指導力高度化実習Ⅰ	長期間に渡って定期的に実習校を訪問し、授業や生徒指導から学校行事に至る様々な教育活動に参加する。教師からの働きかけによる児童・生徒の変化を体験するとともに、児童・生徒の長期的な変容を観察する。 (37 鈴木 秀志・38 伊藤 公介・40 吉澤 勝治)	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目	実践的指導力高度化実習Ⅱ	学生の目標に応じて、様々な実習の形態をとる。 ・長期間に渡って定期的の実習校を訪問し、授業や児童・生徒の指導、行事などに関わりながら、実践的指導力を身につけていく。 ・大学院で学んだ専門的な知見を生かして新しい教材を作成し、集中的に授業実践を行い、その授業記録を分析して授業計画や教材の修正を行う。 (37 鈴木 秀志・38 伊藤 公介・40 吉澤 勝治)	共同
	訪問実習	教育委員会の傍聴、教育委員との会談等様々な訪問を通して、在職中にはできなかった経験を得る。「共通科目」との往還を図り、教育課程、教育方法、生徒指導、学級・学校経営、教職キャリア、特別支援教育等の視点に基づいて経験を省察することにより、教育や学校に関する新たな知見を得る。 (1 村山 功・2 石上 靖芳・3 武井 敦史・25 町 岳・37 鈴木 秀志・38 伊藤 公介・40 吉澤 勝治)	共同
	学校改善力高度化実習Ⅰ	共通科目や訪問実習で修得した知識・技能を踏まえ、実習校において観察から参加へと関与の度合いを増しつつ、学生個々の関心に応じた内容を身につける。連携協力校（実習校）における実習と教職大学院の授業との往還をつくりながら実施する。 (37 鈴木 秀志・38 伊藤 公介・40 吉澤 勝治)	共同
	学校改善力高度化実習Ⅱ	それまでの科目履修で獲得した知識・技法をベースに、連携協力校・附属学校をフィールドとして、学生個々の追究テーマを定め、具体的計画を策定し、実践し、評価するというPDCAサイクル型の取組を経験し、在籍校での実践やこれまでの教職経験とを比較検証し、複数事例から本質的事項や今後の実践のための手がかりを抽出することで、スクールリーダーにふさわしい高度な実践的指導力を身につける。 (37 鈴木 秀志・38 伊藤 公介・40 吉澤 勝治)	共同
	特別支援教育基盤実習	高度な実践的指導力形成の基礎となる経験を、主として観察を通して身につける。「共通科目」との往還を図り、特別支援教育を中心としつつも教育課程、教育方法、生徒指導、学級・学校経営、教職キャリア等の視点に基づいて、経験を省察して知見を得ると同時に深い観察を可能とする。 (14 大塚 玲・35 山元 薫・39 小垓 和代)	共同
	特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅰ	長期間に渡って定期的の実習校を訪問し、授業や生徒指導から学校行事に至る様々な特別支援教育活動に参加する。教師からの働きかけによる児童・生徒の変化を体験するとともに、児童・生徒の長期的な変容を観察する。 (14 大塚 玲・35 山元 薫・39 小垓 和代)	共同
	特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅱ	学生の目標に応じて、様々な実習の形態をとる。 ・長期間に渡って定期的の実習校を訪問し、授業や児童・生徒の指導、行事などに関わりながら、特別支援教育における実践的指導力を身につけていく。 ・大学院で学んだ専門的な知見を生かして新しい教材を作成し、集中的に授業実践を行い、その授業記録を分析して授業計画や教材の修正を行う。 (14 大塚 玲・35 山元 薫・39 小垓 和代)	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目			特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅰ	共通科目や訪問実習で修得した知識・技能を踏まえ、実習校において観察から参加へと関与の度合いを増しつつ、学生個々の関心に応じた内容を身につける。連携協力校（実習校）における実習と教職大学院の授業との往還をつくりながら実施する。 （14 大塚 玲・35 山元 薫・39 小垈 和代）	共同
			特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅱ	それまでの科目履修で獲得した知識・技法をベースに、連携協力校・附属学校をフィールドとして、学生個々の追究テーマを定め、具体的計画を策定し、実践し、評価するというPDCAサイクル型の取組を経験し、在籍校での実践やこれまでの教職経験とを比較検証し、複数事例から本質的事項や今後の実践のための手がかりを抽出することで、特別支援教育のリーダーにふさわしい高度な実践的指導力を身につける。 （14 大塚 玲・35 山元 薫・39 小垈 和代）	共同
分野科目	教育方法分野	分野必修科目	校内授業研究の応用と評価	校内授業研究の全国的動向と傾向や、静岡県内の小中高等学校の授業研究を、実際の授業分析を通して学ぶ。さらに平成29年に告示された学習指導要領においては、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの資質・能力が示されている。これらの資質・能力を育成すべき校内授業研究の方法論や評価方法論はどのように行っていけばよいのかを公立校の先進事例校や附属学校園の先進事例の検討を踏まえながら深めていく。 （1 村山 功・2 石上 靖芳）	共同
			資質・能力を育む授業デザインの開発	授業を分析するさまざまな基礎理論や技法について、それらを用いて分析を行った事例を通して理解する。次に、中央教育審議会答申を検討し、主体的・対話的で深い学びだけではなく、そこでの議論が依拠している人間の学習過程のモデルを明らかにする。さらに、資質・能力を育む授業として公表された事例を持ち寄って検討し、自分たちの授業デザインを開発・検討する。	
		自由選択科目	授業と学習のメカニズム	学習科学や認知科学の知見に基づき、人間の学習メカニズムについて、とくに知識や技能の獲得という認知面と、動機づけや意欲といった情動面から理解する。このような知見を生かして研究されている授業モデルを複数の文献資料をグループワーク主体で読んで議論し、授業場面と対応付けて統合させながら体系的に学習する。	
			マイクロ・ティーチングによる授業実践演習Ⅰ	【学卒】実習校における授業実践を念頭におき、指導案作成、模擬授業、省察と指導を繰り返すことで、授業実践の力を身につける。提示された課題に対して短時間の模擬授業を行いながら、導入、課題提示、個人活動や小集団活動、まとめなどの段階ごとの指導や、発問・指示あるいは板書などの技能について学んでいく。	
			マイクロ・ティーチングによる授業実践演習Ⅱ	【学卒】実習校における授業実践を念頭におき、指導案作成、模擬授業、省察と指導を繰り返すことで、授業実践の力を身につける。提示された課題に対して短時間の模擬授業を行いながら、導入、課題提示、個人活動や小集団活動、まとめなどの段階ごとの指導や、発問・指示あるいは板書などの技能について学んでいく。	
			学校研究コンサルテーションⅠ	【現職】学校での教育活動は、学校・地域や児童・生徒の実態など様々な制約の中で行われる。その中で成果を上げるために必要な、アンケート調査やインタビューなどによる実態の把握、実態に即した対策の立案、教職員との課題と対策の共有、組織の立ち上げと運営、立場の異なる利害関係者への働きかけなどを身につける。 （1 村山 功・2 石上 靖芳）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教育方法分野	自由選択科目	学校研究コンサルテーションⅡ	【現職】学校研究コンサルテーションⅠの対象であった学校を越えて、複数の学校や地域を対象とした活動について学ぶ。学校研究コンサルテーションⅠで学んだ、実態の把握、課題や方針の共有、組織の運営、成果の検討と共有などの内容をさらに深めていく。 (1 村山 功・2 石上 靖芳)	共同
			教育実践の開発と評価	優れた教育実践を調査し、それがよって立つ理論的・実践的なアイデアを検討する。抽出したアイデアに基づいて新たな教育実践を開発するとともに、その成果の評価方法を考案する。実習との連携を重視する。 (1 村山 功・2 石上 靖芳・25 町 岳)	共同
	教科教育分野	分野必修科目	教科横断的教育課程論	学習指導要領においては、教科等に関連する資質・能力の他に、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科横断的な視点から育成することが求められている。これらの教科横断的な資質・能力の育成を、教科等の教育と関連させながら実現させる力を身に付けることを目的として、（１）静大SPeCに基づいて各教科持ち回りで教科の特質や見方・考え方などについて検討するとともに、（２）いくつかの区切りを設けて、合科・テーマ学習など教科横断的な教育課程の編成について議論を行う。 (オムニバス方式／全15回) (1 村山 功／5回) 人文社会系、自然科学系、創造系の教科の特質を踏まえた教科横断的な教育課程の編成について、解説と討論を行う。 (6 大塚 浩／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。 (7 磯山 恭子／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。 (8 熊倉 啓之／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。 (18 郡司 賀透／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。 (19 長谷川 慎／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。 (11 芳賀 正之／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。 (33 野津 一浩／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。 (24 室伏 春樹／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。 (12 色川 卓男／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。 (21 亘理 陽一／1回) 静大SPeCに基づいて、各教科の特質や見方・考え方を説明すると同時に、他の教科との関係について解説する。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	分野必修科目	教科学習論（人文社会系）	教科の学習を指導するには、教科内容についての知識とともに、学習者についての知識が不可欠である。そこで必要とされる学習者についての知識は、学習者一般的に関する知識や個々の学習者の知識だけではなく、教科の学習に特有の知識が特に重要となる。この科目では、学習者のつまずきに焦点を当てて、学習指導について教科固有の知見を深める。人文社会系の教科内容を学ぶ学習者が直面する学習上の困難とその原因を検討するとともに、困難に直面している学習者を発見するための診断法を身につける。 （オムニバス方式／全15回） （6 大塚 浩・26 坂口 京子／3回）（共同） 国語科における学習者理解と、国語科を学ぶ難しさや具体的なつまずきについて解説する。 （7 磯山 恭子・36 村井 大介／6回）（共同） 社会科における学習者理解と、社会科を学ぶ難しさや具体的なつまずきについて解説する。 （29 矢野 淳・60 白畑 知彦／3回）（共同） 英語における学習者理解と、英語を学ぶ難しさや具体的なつまずきについて解説する。 （6 大塚 浩・7 磯山 恭子・26 坂口 京子・29 矢野 淳・36 村井 大介・60 白畑 知彦／3回）（共同） 学習者理解の意義や方法、授業への活かし方について解説する。	オムニバス方式・共同
			教科学習論（自然系）	教科の学習を指導するには、教科内容についての知識とともに、学習者についての知識が不可欠である。そこで必要とされる学習者についての知識は、学習者一般的に関する知識や個々の学習者の知識だけではなく、教科の学習に特有の知識が特に重要となる。この科目では、学習者のつまずきに焦点を当てて、学習指導について教科固有の知見を深める。自然系の教科内容を学ぶ学習者が直面する学習上の困難とその原因を検討するとともに、困難に直面している学習者を発見するための診断法を身につける。 （オムニバス方式／全15回） （27 松元 新一郎／3回） 数学における学習者理解と、数学を学ぶ難しさや具体的なつまずきについて解説する。 （18 郡司 賀透／3回） 理科における学習者理解と、理科を学ぶ難しさや具体的なつまずきについて解説する。 （28 紅林 秀治／3回） 技術科における学習者理解と、技術科を学ぶ難しさや具体的なつまずきについて解説する。 （34 小清水 貴子／3回） 家庭科における学習者理解と、家庭科を学ぶ難しさや具体的なつまずきについて解説する。 （18 郡司 賀透・27 松元 新一郎・28 紅林 秀治・34 小清水 貴子／3回）（共同） 学習者理解の意義や方法、授業への活かし方について解説する。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	分野必修科目	教科学習論（創造系）	教科の学習を指導するには、教科内容についての知識とともに、学習者についての知識が不可欠である。そこで必要とされる学習者についての知識は、学習者一般的に関する知識や個々の学習者の知識だけではなく、教科の学習に特有の知識が特に重要となる。この科目では、学習者のつまずきに焦点を当てて、学習指導について教科固有の知見を深める。創造系の教科内容を学ぶ学習者が直面する学習上の困難とその原因を検討するとともに、困難に直面している学習者を発見するための診断法を身につける。 （オムニバス方式／全15回） （19 長谷川 慎・99 服部 慶子／3回）（共同） 音楽における学習者理解と、音楽を学ぶ難しさや具体的なつまづきについて解説する。 （11 芳賀 正之・32 高橋 智子／3回）（共同） 美術における学習者理解と、美術を学ぶ難しさや具体的なつまづきについて解説する。 （102 山崎 朱音／3回） 保健体育における学習者理解と、保健体育を学ぶ難しさや具体的なつまづきについて解説する。 （41 杉崎 哲子／3回） 書における学習者理解と、書を学ぶ難しさや具体的なつまづきについて解説する。 （11 芳賀 正之・19 長谷川 慎・32 高橋 智子・41 杉崎 哲子・99 服部 慶子・102 山崎 朱音／3回）（共同） 学習者理解の意義や方法、授業への活かし方について解説する。	オムニバス方式・共同（一部）
			教材開発論（国語）	教科教育の教員は、学習者のつまずきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまずきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、国語の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。 （41 杉崎 哲子・42 江口 尚純・68 中村 ともえ・94 深津 周太）	共同
			教材開発論（社会科）	教科教育の教員は、学習者のつまずきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまずきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、社会科の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。 （43 矢野 敬一・69 西野 肇・72 米原 優・73 佐藤 正志）	共同
			教材開発論（数学）	教科教育の教員は、学習者のつまずきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまずきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、算数・数学の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。 （8 熊倉 啓之・27 杉元 新一郎）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	分野必修科目	教材開発論（理科）	教科教育の教員は、学習者のつまずきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまずきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、理科の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。 （9 小南 陽亮・48 延原 尊美・49 古賀 幹人）	共同
			教材開発論（音楽）	教科教育の教員は、学習者のつまずきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまずきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、音楽の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。 （10 寶福 英樹・78 長谷川 慶岳・98 後藤 友香理）	共同
			教材開発論（美術）	教科教育の教員は、学習者のつまずきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまずきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、図画工作・美術の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。 （11 芳賀 正之・32 高橋 智子・50 大宮 康男・51 伊藤 文彦・79 川原崎 知洋・100 名倉 達了）	共同
			教材開発論（保健体育）	教科教育の教員は、学習者のつまずきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまずきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、保健体育の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。	
			教材開発論（技術科）	教科教育の教員は、学習者のつまずきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまずきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、技術科の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。 （24 室伏 春樹・28 紅林 秀治・56 松永 泰弘・57 藤井 道彦・83 鄭 基浩・84 改正 清広）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	分野必修科目		教材開発論（家庭科）	教科教育の教員は、学習者のつまづきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまづきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、家庭科の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。 (12 色川 卓男・34 小清水 貴子・58 村上 陽子・59 冬木 春子・85 竹下 温子)	共同
			教材開発論（英語）	教科教育の教員は、学習者のつまづきを理解することに加えて、それを克服するための指導ができなければならない。教科学習論で学んだ学習者のつまづきを、どのようにして克服させることができるかを学ぶのがこの科目である。ここでは、英語の学習において学習者が直面する学習上の困難を克服するための様々な方法を学ぶだけではなく、教科教育における理論と実践の統合を目指し、学習者の興味・関心を引きつけ、学ぶ価値のある教材を開発する力を育成する。 (21 亘理 陽一・29 矢野 淳・60 白畑 知彦・87 クレメンツ ピーター フレデリック)	共同
	教科教育分野 自由選択科目		教科内容論（国語）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。国語を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、国語に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（国語編）に示された国語に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 (41 杉崎 哲子・42 江口 尚純・68 中村 ともえ・94 深津 周太)	共同
			教科内容論（社会科）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。社会科を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、社会科に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（社会編）に示された社会科に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 (43 矢野 敬一・44 池田 恵子・69 西野 肇・70 伊藤 宏二・71 中條 暁仁・72 米原 優・73 佐藤 正志)	共同
			教科内容論（数学）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。算数・数学を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、算数・数学に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（算数編、数学編）に示された算数・数学に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 (45 山田 耕三・46 大和田 智義・74 谷本 龍二・75 畑 宏明・95 四之宮 佳彦)	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科内容論（理科）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。理科を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、理科に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（理科編）に示された理科に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 （76 本多 和仁・77 雪田 聡・96 加藤 英明・97 内山 秀樹）	共同
			教科内容論（音楽）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。音楽を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、音楽に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（音楽編）に示された音楽に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 （10 寶福 英樹・78 長谷川 慶岳・98 後藤友香理）	共同
			教科内容論（美術）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。図画工作・美術を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、美術に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（図画工作編、美術編）に示された美術に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 （11 芳賀 正之・32 高橋 智子）	共同
			教科内容論（保健体育）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。保健体育を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、保健体育に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（体育編、保健体育編）に示された保健体育に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 （33 野津 一浩・54 杉山 康司・81 祝原 豊・101 村田 真一・102 山崎 朱音）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科内容論（技術科）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。技術科を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、技術科に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（技術・家庭編）に示された技術科に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 （24 室伏 春樹・28 紅林 秀治・56 松永 泰弘・57 藤井 道彦・83 鄭 基浩・84 改正 清広）	共同
			教科内容論（家庭科）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。家庭科を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、家庭科に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（家庭編、技術・家庭編）に示された家庭科に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 （12 色川 卓男・34 小清水 貴子・58 村上 陽子・59 冬木 春子・85 竹下 温子）	共同
			教科内容論（英語）	今回の学習指導要領の特徴の一つは、教育目標・内容を資質・能力として示したことである。英語を教える教員は、資質・能力の考え方を理解するとともに、英語に固有の資質・能力を熟知することが求められる。これは単に教育目標・内容を理解するだけに留まらず、指導方法や評価について考えるためにも不可欠である。この科目では、学習指導要領解説（外国語活動・外国語編、外国語編）に示された英語に関する資質・能力を確認し、トピックを選んで教育内容を深く掘り下げ、資質・能力を具体化することを通して、単元でつきたい力を明確化する力量を育てる。 （60 白畑 知彦・61 森野 和弥・62 丸山 修・86 河村 道彦）	共同
			教科指導論（国語）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、国語教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （3 大塚 浩・26 坂口 京子）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科指導論（社会科）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、社会科教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （7 磯山 恭子・36 村井 大介・70 伊藤 宏二・71 中條 暁仁）	共同
			教科指導論（数学）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、数学教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （8 熊倉 啓之・27 杉元 新一郎）	共同
			教科指導論（理科）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、理科教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （9 小南 陽亮・48 延原 尊美・104 山本 高広）	共同
			教科指導論（音楽）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、音楽教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （19 長谷川 慎・99 服部 慶子）	共同
			教科指導論（美術）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、美術教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （11 芳賀 正之・32 高橋 智子）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科指導論（保健体育）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、保健体育教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （20 赤田 信一・52 河合 学・53 新保 淳・55 岡端 隆・82 杉山 卓也）	共同
			教科指導論（技術科）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、技術科教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （24 室伏 春樹・28 紅林 秀治・56 松永 泰弘・57 藤井 道彦・83 鄭 基浩・84 改正 清広）	共同
			教科指導論（家庭科）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、家庭科教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （12 色川 卓男・34 小清水 貴子・58 村上 陽子・59 冬木 春子・85 竹下 温子）	共同
			教科指導論（英語）	教科を指導する教員は、教科内容を熟知し、その教科に特有の学習者に対する理解を持った上で、適切な教科指導を行うことが求められる。そのためには、これまでに考案・実施されてきた様々な指導方法を知り、それを活用しながら新たな指導方法を生み出していくことが必要である。この科目では、英語教育の中から関心のあるトピックを選び、それに関する指導法を調査するとともに、教科の専門的な観点及び授業改善の視点から検討し、指導法を考案することで、つきたい力のつく指導法を構想する力量を育てる。 （29 矢野 淳・61 森野 和弥・62 丸山 修・86 河村 道彦）	共同
			教科内容演習 A（国語）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、国語教育の中から関心のあるトピックを選び、国語の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（国語）とは異なるトピックを扱う （41 杉崎 哲子・42 江口 尚純・68 中村 ともえ・94 深津 周太）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科内容演習 A（社会科）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、社会科教育の中から関心のあるトピックを選び、社会科の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（社会科）とは異なるトピックを扱う （7 磯山 恭子・36 村井 大介・43 矢野 敬一・44 池田 恵子・69 西野 肇・70 伊藤 宏二・71 中條 暁仁・72 米原 優・73 佐藤 正志）	共同
			教科内容演習 A（数学）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、数学教育の中から関心のあるトピックを選び、数学の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（数学）とは異なるトピックを扱う （45 山田 耕三・46 大和田 智義・74 谷本 龍二・75 畑 宏明・95 四之宮 佳彦）	共同
			教科内容演習 A（理科）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、理科教育の中から関心のあるトピックを選び、理科の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（理科）とは異なるトピックを扱う （47 小山 真人・76 本多和仁・77 雪田 聡・96 加藤 英明・97 内山 秀樹）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科内容演習 A（音楽）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、音楽教育の中から関心のあるトピックを選び、音楽の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（音楽）とは異なるトピックを扱う （10 寶福 英樹・19 長谷川 慎・78 長谷川 慶岳・98 後藤 友香理・99 服部 慶子）	共同
			教科内容演習 A（美術）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、美術教育の中から関心のあるトピックを選び、技術の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（美術）とは異なるトピックを扱う （50 大宮 康男・51 伊藤 文彦・79 川原崎 知洋・100 名倉 達了）	共同
			教科内容演習 A（保健体育）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、保健体育教育の中から関心のあるトピックを選び、保健体育の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（保健体育）とは異なるトピックを扱う （33 野津 一浩・102 山崎 朱音）	共同
			教科内容演習 A（技術科）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、技術科教育の中から関心のあるトピックを選び、技術科の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（技術科）とは異なるトピックを扱う （24 室伏 春樹・28 紅林 秀治・56 松永 泰弘・57 藤井 道彦・83 鄭 基浩・84 改正 清広）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科内容演習 A（家庭科）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、家庭科教育の中から関心のあるトピックを選び、家庭科の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（家庭科）とは異なるトピックを扱う （12 色川 卓男・34 小清水 貴子・58 村上 陽子・59 冬木 春子・85 竹下 温子）	共同
			教科内容演習 A（英語）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、英語教育の中から関心のあるトピックを選び、英語の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 B（英語）とは異なるトピックを扱う （61 森野 和弥・62 丸山 修・86 河村 道彦・87 クレメンツ ピーター フレデリック）	共同
			教科内容演習 B（国語）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、国語教育の中から関心のあるトピックを選び、国語の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（国語）とは異なるトピックを扱う （41 杉崎 哲子・42 江口 尚純・68 中村 ともえ・94 深津 周太）	共同
			教科内容演習 B（社会科）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、社会科教育の中から関心のあるトピックを選び、社会科の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（社会科）とは異なるトピックを扱う （7 磯山 恭子・36 村井 大介・43 矢野 敬一・44 池田 恵子・69 西野 肇・70 伊藤 宏二・71 中條 暁仁・72 米原 優・73 佐藤 正志）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科内容演習 B（数学）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、数学教育の中から関心のあるトピックを選び、数学の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（数学）とは異なるトピックを扱う （45 山田 耕三・46 大和田 智義・74 谷本 龍二・75 畑 宏明・95 四之宮 佳彦）	共同
			教科内容演習 B（理科）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、理科教育の中から関心のあるトピックを選び、理科の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（理科）とは異なるトピックを扱う （47 小山 真人・76 本多和仁・77 雪田 聡・96 加藤 英明・97 内山 秀樹）	共同
			教科内容演習 B（音楽）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、音楽教育の中から関心のあるトピックを選び、音楽の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（音楽）とは異なるトピックを扱う （10 寶福 英樹・19 長谷川 慎・78 長谷川 慶岳・98 後藤 友香理・99 服部 慶子）	共同
			教科内容演習 B（美術）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、美術教育の中から関心のあるトピックを選び、技術の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（美術）とは異なるトピックを扱う （50 大宮 康男・51 伊藤 文彦・79 川原崎 知洋・100 名倉 達了）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科内容演習 B（保健体育）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、保健体育教育の中から関心のあるトピックを選び、保健体育の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（保健体育）とは異なるトピックを扱う （54 杉山 康司・81 祝原 豊・101 村田 真一）	共同
			教科内容演習 B（技術科）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、技術科教育の中から関心のあるトピックを選び、技術科の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（技術科）とは異なるトピックを扱う （24 室伏 春樹・28 紅林 秀治・56 松永 泰弘・57 藤井 道彦・83 鄭 基浩・84 改正 清広）	共同
			教科内容演習 B（家庭科）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、家庭科教育の中から関心のあるトピックを選び、家庭科の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（家庭科）とは異なるトピックを扱う （12 色川 卓男・34 小清水 貴子・58 村上 陽子・59 冬木 春子・85 竹下 温子）	共同
			教科内容演習 B（英語）	今回の学習指導要領においては、教科等の特質に応じた見方・考え方の育成が強調されている。単に教科の指導・学習に留まらず、教科横断的な教育課程を実現していく上でも、教科等の特質に応じた見方・考え方の理解が不可欠である。この見方・考え方は教科の学習プロセスの中で「働かせる」ことで、深い学びを実現すると同時に見方・考え方の育成につながっていく。教科を指導する教員は、その教科の特質に応じた見方・考え方の働かせ方を知っていなければならない。この科目では、英語教育の中から関心のあるトピックを選び、英語の特質に応じた見方・考え方を働かせる活動を通して、資質・能力が高められることを自ら体験し、指導に活かせるようにする。 ※教科内容演習 A（英語）とは異なるトピックを扱う （61 森野 和弥・62 丸山 修・86 河村 道彦・87 クレメンツ ピーター フレデリック）	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科教育専門研究A (国語)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、国語教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような国語教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（国語）とは異なるトピックを扱う (3 大塚 浩・41 杉崎 哲子・42 江口 尚純・68 中村 ともえ・94 深津 周太)	共同
			教科教育専門研究A (社会科)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、社会科教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような社会科教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（社会科）とは異なるトピックを扱う (7 磯山 恭子・36 村井 大介・43 矢野 敬一・44 池田 恵子・69 西野 肇・70 伊藤 宏二・71 中條 暁仁・72 米原 優・73 佐藤 正志)	共同
			教科教育専門研究A (数学)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、数学教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような数学教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（数学）とは異なるトピックを扱う (45 山田 耕三・46 大和田 智義・74 谷本 龍二・75 畑 宏明・95 四之宮 佳彦)	共同
			教科教育専門研究A (理科)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、理科教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような理科教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（理科）とは異なるトピックを扱う (9 小南 陽亮・18 郡司 賀透・47 小山 真人・48 延原 尊美・49 古賀 幹人・76 本多和仁・77 雪田 聡・96 加藤 英明・97 内山 秀樹・104 山本 高広)	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科教育専門研究A (音楽)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、音楽教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような音楽教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（音楽）とは異なるトピックを扱う (10 寶福 英樹・19 長谷川 慎・78 長谷川 慶岳・98 後藤 友香理・99 服部 慶子)	共同
			教科教育専門研究A (美術)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、美術教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような美術教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（美術）とは異なるトピックを扱う (50 大宮 康男・51 伊藤 文彦・79 川原崎 知洋・100 名倉 達了)	共同
			教科教育専門研究A (保健体育)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、保健体育教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような保健体育教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（保健体育）とは異なるトピックを扱う	
			教科教育専門研究A (技術科)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、技術科教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような技術科教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（技術科）とは異なるトピックを扱う (24 室伏 春樹・28 紅林 秀治・56 松永 泰弘・57 藤井 道彦・83 鄭 基浩・84 改正 清広)	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科教育専門研究A (家庭科)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、家庭科教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような家庭科教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（家庭科）とは異なるトピックを扱う (12 色川 卓男・34 小清水 貴子・58 村上 陽子・59 冬木 春子・85 竹下 温子)	共同
			教科教育専門研究A (英語)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、英語教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような英語教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究B（英語）とは異なるトピックを扱う (21 亘理 陽一・61 森野 和弥・62 丸山 修・86 河村 道彦)	共同
			教科教育専門研究B (国語)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、国語教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような国語教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A（国語）とは異なるトピックを扱う (3 大塚 浩・41 杉崎 哲子・42 江口 尚純・68 中村 ともえ・94 深津 周太)	共同
			教科教育専門研究B (社会科)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、社会科教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような社会科教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A（社会科）とは異なるトピックを扱う (7 磯山 恭子・36 村井 大介・43 矢野 敬一・44 池田 恵子・69 西野 肇・70 伊藤 宏二・71 中條 暁仁・72 米原 優・73 佐藤 正志)	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科教育専門研究B (数学)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、数学教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような数学教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A（数学）とは異なるトピックを扱う (45 山田 耕三・46 大和田 智義・74 谷本 龍二・75 畑 宏明・95 四之宮 佳彦)	共同
			教科教育専門研究B (理科)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、理科教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような理科教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A（理科）とは異なるトピックを扱う (9 小南 陽亮・18 郡司 賀透・47 小山 真人・48 延原 尊美・49 古賀 幹人・76 本多和仁・77 雪田 聡・96 加藤 英明・97 内山 秀樹・104 山本 高広)	共同
			教科教育専門研究B (音楽)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、音楽教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような音楽教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A（音楽）とは異なるトピックを扱う (10 寶福 英樹・19 長谷川 慎・78 長谷川 慶岳・98 後藤 友香理・99 服部 慶子)	共同
			教科教育専門研究B (美術)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、美術教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような美術教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A（美術）とは異なるトピックを扱う (50 大宮 康男・51 伊藤 文彦・79 川原崎 知洋・100 名倉 達了)	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	教科教育分野	自由選択科目	教科教育専門研究B (保健体育)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、保健体育教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような保健体育教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A(保健体育)とは異なるトピックを扱う (52 河合 学・53 新保 淳・55 岡端 隆・65 吉田 和人・82 杉山 卓也)	共同
			教科教育専門研究B (技術科)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、技術科教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような技術科教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A(技術科)とは異なるトピックを扱う (24 室伏 春樹・28 紅林 秀治・56 松永 泰弘・57 藤井 道彦・83 鄭 基浩・84 改正 清広)	共同
			教科教育専門研究B (家庭科)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、家庭科教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような家庭科教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A(家庭科)とは異なるトピックを扱う (12 色川 卓男・34 小清水 貴子・58 村上 陽子・59 冬木 春子・85 竹下 温子)	共同
			教科教育専門研究B (英語)	教科教育分野に所属する学生は、学部新卒学生であっても近い将来においては、その教科の学習指導に関して、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすことが期待される。そのためには、その教科の学習論や指導論についての力量と同時に、教科内容についての幅広い知識を持ち、教材研究を深めていく力量が不可欠である。この科目においては、英語教育の中から関心のあるトピックを選び、教科に関する専門性を高めていく。今後、学習指導要領の改訂によって教育内容が変更されても、それに十分に対応できるような英語教員としての力量を身につける。 ※教科教育専門研究A(英語)とは異なるトピックを扱う (21 亘理 陽一・61 森野 和弥・62 丸山 修・86 河村 道彦)	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	生徒発達支援分野	分野必修科目	学校心理学の理論と方法	学校心理学における生態学的モデルに基づいた心理教育的アセスメントについて、個と環境の双方からのアセスメントの重要性や、その内容について学んでいく。さらに子どもの発達や学校生活上で出会う問題状況の解決を目指して行う心理教育的援助サービスの内容や方法についても、一次的、二次的、三次的援助サービスの各段階において学校での支援例をあげ具体的に子どもの様子をイメージしながら理解を深めていく。特に、一次的援助サービスにおけるいじめ等の問題行動の未然防止や、災害や重大事態などの学校危機発生時におけるアセスメントや支援の支援内容も取り入れ、様々な子どものニーズに、かつ様々な状況にも対応できる基本的な理論や技術を身につける。	
			臨床心理学の理論と方法	児童生徒の発達過程を踏まえ、それぞれの発達段階において直面するリスクを臨床心理学的な観点から理解する。また、そうした困難を経験し、“問題”と言われるような行動などを抱えることになった児童生徒への援助方法を様々な心理療法の理論と方法を用いて検討し、学校現場で実践する力とスキルの獲得を目指す。加えて、医療、福祉、司法・矯正領域など近接領域における子どもの心理的な課題や臨床心理学的援助についても学び、連携協働を進める力も身に付ける。	
			発達心理学の理論と実際	発達心理学・発達科学の分野における認知発達理論を体系的に学習する。また、近年盛んに行われている神経科学的手法を用いた発達科学の研究手法、認知心理学的手法を用いた実験発達心理学について理解を深めることで、自ら最新の発達心理学の知見を読み解き、分析する能力を養う。その上で、自分でも現場で発達に関する問題を発見した際に、実証的に問題を分析し、解決できる力を身に付ける。さらに、教育現場における様々な子どもたちの個々の発達を発達心理学的な視点から分析し、それぞれに応じた発達支援の計画作成に習熟する。	
	自由選択科目		学習支援の理論と実際	教授・学習心理学の観点から、児童・生徒の学習過程や学習上の問題を理解し、1対1の指導場面、クラス全体での授業場面などにおいて効果的な学習支援の方法を工夫し遂行するための基本的な考え方や技術を理論的・実践的に学習する。具体的には、記憶・理解・転移・メタ認知、動機づけに関する心理学的理論と支援、ワーキングメモリ容量の制限を踏まえた支援、教授的説明の問題と技術、足場かけ支援の理論と実際、ピア学習の理論と技法、談話分析の考え方と応用などについて取り上げる。	
			心理アセスメントの理論と実際	個々のニーズに応じた教育的支援を実現するため、個々の生徒の特長を把握する方法としての心理検査を始めとする心理アセスメントの理論と実際を学び、児童生徒支援に活用する力を身に付けることを目指す。特に、知能検査については学校現場で他の教職員にその内容をより詳しく説明し、具体的な支援計画を立案できるようになる力を身に付ける。また相談機関のカンファレンスに参加するなどして、そうしたアセスメントが子どもの支援にどのように活用されているかについて学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	生徒発達支援分野	自由選択科目	学校コンサルテーションの理論と実際	子どもの行動を支援するために、担任教師や保護者に対する相互コンサルテーションの理論、さらに学校組織全体に対して行うシステムコンサルテーションに関する理論にふれながら、コンサルテーションの進め方について基本的な考え方や技術を理解する。それらを学んだ上で、担任等への相互コンサルテーションや外部機関との連携方法について、演習を交えながら課題点をあげ、それを解決していくための方法についてもグループ学習などを通して体験的に学んでいく。さらに災害や自殺等の学校危機発生時における、学校組織全体に対するシステムコンサルテーションについても扱い、日常的な支援だけでなく危機発生時におけるコンサルテーションにも触れていく。	
			生徒指導・教育相談の理論と実践	不登校やいじめ等の生徒指導上の諸問題について文部科学省などのデータをふまえながら、子どもがおかれている問題状況について理解する。さらに、子どもを支援するために必要な適切な保護者対応および関連機関との連携における諸課題を見据えたチーム作りの進め方について実践的に理解を深めていく。また教師のメンタルヘルスなどもテーマとして扱うなど、学校教育の現場に即した実践的課題をテーマとして扱い、適切な支援策を企画遂行する能力の獲得・強化を目指す。 (37 鈴木 秀志・38 伊藤 公介)	共同
	特別支援教育分野	分野必修科目	発達障害の理解と対応	ASD、ADHD、LDを代表とする発達障害、知的障害、情緒障害などに関する心理、病理からの解説、特性等の理解を深める。概要や一般的事項の整理を行った後、それらの知識や知見を同僚や保護者、子どもと共有できるレベルまで具体化していく。また、それに基づく対応について講義する。対応は、心理、学習、認知、行動、身体など他側面からのアプローチで考えていく。教室のできる支援、個別での支援、関係機関が行う支援など、詳細を紹介していく。加えて学校や家庭における支援の具体について論じていく。そのなかでは保護者との連携のあり方やその進め方について特に取り上げる。	
			特別支援教育の現状と課題Ⅰ	特別支援教育の理念・制度、実践をキーワードに、特別支援教育の基礎的・概念的な理解を図る。特別支援教育の現代的課題について各自でテーマを定め、基礎的資料、データ、事例報告、研究論文等を収集し、レビュー・マトリックスを作成する。収集した資料を俯瞰的に縦断的かつ横断的に分析し、総括を行うことで、課題の分析力や解決力を養う。また課題について受講者との討議をおこない、チームで理解し、考察するための知識・技能を身に付けることが目的である。	
			ユニバーサルデザイン授業論	特別支援学校、特別支援学級、通級による指導での授業実践について学ぶとともに、通常の学級で特別な教育的ニーズのある児童生徒をインクルードできる学級経営や授業づくりの基礎を学ぶ。まず、発達障害等のある児童生徒の学習上の特性や行動特徴、情動調整の難しさ等を理解し、次に実際の授業の場面ではどのような困難さを示すのか授業記録から具体的に学ぶ。あわせて、生活年齢や発達段階ごとに顕在化する困難さの理解を深め、授業の参加を支えるための支援や思考を深めるために必要な支援の具体を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	特別支援教育分野	自由選択科目	障害児の認知発達とその支援	この授業の目標は、学習や行動面において障害のある子どもたちが抱える困難の背景にある、記憶や聴覚・視覚認知、言語など、さまざまな領域の認知発達とそのアセスメントの方法について習得し、認知発達に応じた支援方法についての理解を深めることである。学習内容としては、まず発達障害の子どもに対する代表的な知能検査であるWISCについて、その実施方法や解釈の仕方、活用方法を学び、そのうえで、実習での観察や教職経験に基づいた自らの実践事例をもとに、障害のある児童生徒の認知発達の把握の方法やそれに基づく支援方法について議論します。	
			発達臨床・特別支援の実践から学ぶ	小中学校、高校、特別支援学校には様々なレベル、実態、障害種、症状をもって児童生徒が学校生活を営んでいる。教師はときに発達臨床、特別支援の立場からその支援の一役を担うことになる。家族や関係機関との連携も支援のあり方のひとつではあるが、ときには教員が主たる役割を担うこともある。この授業では、受講生それぞれが、支援を要する事例を紹介し、その理解や対応について実践を通して解説、検討を行う。検討においては、学校という集団、組織で行える対応、ここの教師で行う対応、関係機関の対応など多方面に展開する。また心理面や行動面、あるいは医療的側面など多次元からの支援を想定していく。なおこの授業で扱う事例は、個人情報取り扱いに十分に配慮するとともに、あくまでも経験上から創作した架空の勉強用の事例を用いる。	
			特別支援教育の現状と課題Ⅱ	現在の特別支援教育に関わる児童生徒には、生活習慣の乱れ、身体的不調、メンタルヘルスの問題、暴言・暴力等、心身の健康に関わる多様な問題が生じている。またその背景にはいじめ、不登校、心身症、児童虐待、貧困等、複雑かつ深刻な諸問題が関わっていることもある。このような多様化する児童生徒が抱える諸問題について、病弱教育の視点から整理し、その背景を理解することで、心の問題への対応、学校での危機管理、家庭や地域、関係機関との連携など、包括的支援の実践力の育成を図る。	
			特別支援教育における授業デザイン	小中学校及び高等学校、特別支援学校の学習指導要領の内容を踏まえ、特別的教育課程の意義や知的障害のある児童生徒を対象とした教育課程について理解する。特別的教育課程は、特別支援学級および通級による指導の実践から、知的障害のある児童生徒を対象とした教育課程については特別支援学級及び特別支援学校の実践から学ぶ。障害による学習上の特性と教育課程の理解の基、資質・能力を育む授業の具体について、模擬授業の実践を通して学ぶ。模擬授業では、準じた教育課程及び知的障害代替教育課程の模擬授業を実践する。	
	幼児教育分野	分野必修科目	幼児教育の現状と課題	現代的な教育の課題となっている幼小連携・接続を踏まえながら、日本における幼児教育の歴史を概観した上で、現在の幼児教育の制度について理解し、幼児教育の多様性の現状と課題について考察する。	
			乳幼児音楽概論	保育内容のうちの領域「表現」の主に音楽的分野に焦点を当て、乳幼児期の基本的な音楽的発達やその意味について、主として乳幼児の映像資料や文献、および観察などを通して学ぶ。また、乳幼児期の音楽的発達に関する関連分野の文献の輪読や検討を通して、この研究分野のこれまでの研究成果及び研究の動向について理解する。それらの周辺学問分野を含めた理論的背景をもとに、実際の保育内容や乳幼児の発達と遊びと関連付けて理解を深める。	
			乳幼児の権利と幼児教育・保育	子どもの権利条約における子ども、特に乳幼児の権利保障・擁護をいかに具体化できるかという課題は、実践的・政策的な課題である。幼児教育・保育の実践を、家庭教育や保護者の労働・生活との関連で捉え、乳幼児の諸権利の具体化という観点から検討する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	幼児教育分野	自由選択科目	子どもの育ちと文化	絵本や児童文学、マンガやアニメなどメディアのなかの子ども像・家族像・社会像やその歴史の変遷、これらのメディア体験をとおしての子どもの育ちについて、具体的な作品の検討をとおして、分析する。	
			乳幼児期の保育と音楽教育	保育内容のうちの領域「表現」の主に音楽的分野における資質・能力を高めるとともに、乳幼児期を起点とした人間の生涯にわたる音・音楽とのかかわりを視野に入れて、当該研究分野の研究領域、研究方法、研究の動向について各人の課題意識および専門分野を生かして学び、理解を深める。また、専門分野の学問的体系や社会的・文化的価値を理解し、実際に保育の現場において援助、指導する場合の留意事項について探究する。	
			幼児教育課程とESD	ESDについての理解を深めるために、ESDと親和性の高い幼児教育における「環境を通して行う教育」、「遊びを通しての総合的な指導」という視点から実際の幼児教育課程を検討し、考察していく。新たな知見をもとに、幼児教育、生活科、総合的な学習の時間におけるプロジェクト（単元）を作成する。	
	養護教育分野	分野必修科目	学校保健の現状と課題	学校保健領域（保健教育、保健管理、組織活動）の変遷や学校保健に関する先行研究を踏まえ、課題を分析する視点や方法について探求する。具体的には、健康管理や学校環境衛生、保健教育や食育、安全教育、性教育等に関する文献調査および調査結果を踏まえ、学校保健の変遷に関する歴史的な背景や現状について考察する。さらに、「健康な心と体」をキーワードにして、平成29年3月告示の幼稚園教育要領に示されている5領域と小学校学習指導要領の内容を比較しながら、幼保・小連携における課題や今後のあり方について検討する。	
			学校における危機管理	学校における危機管理の視点より、リスク・マネジメントおよびクライシス・マネジメントについて、事前の準備から非常時対応、事後の対策まで理解を深める。さらに附属学校や公立学校における危機管理の実践について探究し、学校安全保健学、危機管理学、災害時精神保健学など専門分野の学問的体系や背景理論をふまえ実践的に理解を深める。また安全教育の系統的・体系的な指導法についても理解を深める。その上で、専門性を生かした学校における危機管理について資質・能力を高める。 (オムニバス方式／全15回) (16 鈴江 毅／2回) 心理的なリスクへの早期対応について解説する。 (31 鎌塚 優子／2回) 学校保健安全計画についてケースに基づいて解説する。 (64 村越 真／9回) 危機管理について概要を説明し、学校における事故とその原因やその対策としての安全教育について解説する。 (16 鈴江 毅・31 鎌塚 優子・64 村越 真／2回) (共同) 導入、まとめ	オムニバス方式・共同（一部）
			養護教諭の教育実践の実際と課題	養護教諭の教育実践における多くの実践事例について、養護教諭の職務5項目（保健室経営、保管管理、保健教育、健康相談、保健組織活動）別に調査し、分析する視点やさまざまな研究方法についての理解を深める。その上で、附属学校及び公立学校での保健室経営や養護実践の実際を理解すること、研究会、学会等に参加し、養護の本質や養護実践を多面的に考察するとともに、専門分野の学問的体系や背景理論をふまえ養護教育実践在り方について探究する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	養護教育分野	自由選択科目	養護教諭の行うアセスメント方法と課題	養護教諭が保健室に入室した児童生徒のアセスメント方法の実際と課題に着目し、背景理論とアセスメントの実際を関連付けながら理解を深める。養護教諭のアセスメントの在り方について、理論と実践を往還させながら新たな方法論を探究し資質・能力を高める。 (オムニバス方式／全15回) (31 鎌塚 優子／7回) ケースメソッド教授法を用いて、様々な問題に対する実践的なアセスメント方法を検討していく。 (80 矢野 潔子／7回) アセスメントの概論及び疾患等のタイプによる対応について解説する。 (31 鎌塚 優子・80 矢野 潔子／1回) (共同) まとめ	オムニバス形式・共同 (一部)
			病気の子どもの理解と養護教諭の対応	養護教諭が学校において遭遇する児童生徒の病気について、医学的・看護学的な視点や研究方法を援用しつつ理解を深める。さらに専門分野の学問的体系や背景理論をふまえ学校看護の実践の在り方について探究する。 (オムニバス方式／全15回) (16 鈴江 毅／7回) 養護教諭が学校で遭遇する児童生徒の様々な疾患について、医学的な観点から解説する。 (80 矢野 潔子／8回) 養護教諭が学校で遭遇する児童生徒の様々な疾患への対応について、看護学的な観点から説明する。	オムニバス方式
			養護教諭が行う健康教育の実践と課題	養護教諭の行う健康教育に関する実践事例を調査し、授業内容や方法について理解を深める。さらに、附属校や公立学校で実施される授業研究会等に参加し、養護教諭が行う健康教育について多面的に考察するとともに、健康教育のあり方について探求する。 (オムニバス方式／全15回) (31 鎌塚 優子／8回) 主として特別支援学校や高校における健康教育の課題と実際について、研究授業への参加を織り交ぜながら解説する。 (80 矢野 潔子／7回) 主として小・中学校における健康教育の課題と実際について、研究授業への参加を織り交ぜながら解説する。	オムニバス方式
			健康相談の実際と課題	健康相談の実際と課題について多くの実践事例を調査する。健康相談に関わる背景理論及び社会的背景などもふまえながら健康相談の在り方や相談体制について理解を深める。さらに附属学校や公立学校の健康相談の実際について探究し、実践的に理解を深め資質・能力を高める。 (オムニバス方式／全15回) (16 鈴江 毅／5回) 健康相談における情報の収集や管理、評価方法などについて解説する。 (31 鎌塚 優子／5回) 健康相談の理論や社会的背景について解説し、学校での健康相談をその中に位置づけていく。 (80 矢野 潔子／5回) 健康相談の主要なトピックについて、相談の実際と課題について解説する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	現代的教育課題分野	分野必修科目 現代的教育課題分野 現代的教育課題分野 現代的教育課題分野	社会の変化に伴って生じる、容易に解決できない困難な教育の諸課題を概観するとともに、その背景と特徴を検討する。また、その解決にあたって、市民としてあるいは教員としてどのような資質が必要かを探求する。 (オムニバス方式／全15回) (64 村越 真／3回) 新たに生じてきた現代的な諸課題を概観し、それに対処する学校と教員の新たな在り方を問いかける。 最終回では、これまでの講義を踏まえ、現代的教育課題に向けて必要な教員の資質・能力について議論する。 (23 塩田 真吾／2回) SNSなどによる見えない繋がりの中で生じる人間関係の問題に目を向け、学校や家庭での対処方法などについて検討する。 (44 池田 恵子／2回) 情報化の進展などにより直接体験の比重が低下してきた現代において、体験的な学び、特に社会参加を通じた学びの意義を検討する。 (88 ヤマモト ルシア エミコ／2回) 長期・短期の居住あるいは観光で多くの人が日本を訪れるようになった結果として生じている課題に目を向け、異文化理解の重要性について検討する。 (90 中村 美智太郎／2回) 多文化の人間が共生する環境で生じる問題のうち、価値観の違いに基づく問題の根源を検討する。 (89 藤井 基貴／2回) 生育環境や文化に基づく価値観の違いが学校にもたらす問題を提起し、教育の場でどのように対処すべきかを検討する。 (17 宇都宮 裕章／2回) 現代の学校には複数の文化的背景のある児童生徒が多く在籍している。この課題に対応するための教員の専門性を、多様性や異質性を積極的に活かした取り組みの実践例と合わせて検討する。	オムニバス方式
			反省的思考は教育の現代的課題解決のための中核となるコンピテンシーであると同時に主体的・対話的な深い学びに欠かせない。またこれは、批判的思考や協調的思考、によって支えられている。本演習では、反省的思考を概念的に把握した基礎の上に、児童生徒の反省的・批判的・協調的思考を高めるための教育方法や評価方法について議論するとともに、個々の教育の現代的課題を題材とした演習を行い、受講生自らがそれを獲得し、自らの教育実践、研究活動に活かすことを目指す。 (17 宇都宮 裕章・23 塩田 真吾・44 池田 恵子・64 村越 真・88 ヤマモト ルシア エミコ・89 藤井 基貴・90 中村 美智太郎)	共同
			創造的思考は新たな価値の創造や効果の確立していない方法を生み出すことによって困難な問題解決へのブレークスルーを可能にする、教育の現代的課題解決に不可欠のコンピテンシーである。本演習では、創造的思考に関する研究や実践を踏まえて概念的に把握した後、その教育方法と評価方法について検討するとともに、個々の現代的課題を題材にした演習を通して、受講生自らがそれを獲得し、自らの教育実践、研究活動に活かすことを目指す。 (17 宇都宮 裕章・23 塩田 真吾・44 池田 恵子・64 村越 真・88 ヤマモト ルシア エミコ・89 藤井 基貴・90 中村 美智太郎)	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	現代的教育課題分野	自由選択科目	国際理解教育	国際的な課題・情勢の動向や、自らの立ち位置の確認を含め、国際理解教育の広い視座から多様化する学習環境と学習する子どもについて解説する。また、在日外国籍児童・生徒やその家族に関わる学校教育問題及び地域社会の問題を国際理解教育という枠組みから考察する。学校において多面性を持った上記の課題内容の理解を深めるために国際交流を取り入れた学習方法が挙げられる。本授業では課題の理解と国際交流に取り組むための知識と手法を学ぶ。	
			道徳	本科目は、（１）道徳教育の理論と歴史の検討、（２）諸外国における道徳教育の実践事例の検討、（３）道徳教育の授業方法の検討、（４）道徳教育における評価方法の検討の４つの要素から構成される。これらの構成要素を通じて、多様な道徳指導上の視点から道徳教育について考察し、これからの「考える道徳」「議論する道徳」の実現条件について多様な視点から考察する力を養う。これらを通じて、受講者が道徳教育に関する指導力の向上を図ることとする。 (89 藤井 基貴・90 中村 美智太郎)	共同
			ICTによる学習環境の構築	授業におけるICTの活用について、教師の道具としてのICT、学習者の道具としてのICTに大別し、具体的な実践事例を示しながら、ICTによって学習が促進されるメカニズムについて論じる。また、ICTによる学校の学習環境の変革や遠隔教育などの学校を超えて学習環境を構築する試みについて紹介していく。 さらに、ICT活用を支える情報活用能力について、具体的な実践事例を示しながら、発達段階を踏まえてどのように育成するかについて考察する。	
			社会参加によるESD実践	子どもたちが向きあう現代的課題（ESDやSDGsが扱う諸課題）はますます多様化・複雑化する一方、その解決には、政府や国際機関だけではなく、地域の自治体、NPO・NGO、企業、社会企業、地域組織など多くの主体が関与している。学校も地域社会の一員であり、子どもたちにとって地域社会は最も身近なESD実践の場である。私たち自身が暮らす地域社会と、地域の課題を解決しようと努力する地域の人々への理解があつてはじめて、適切なESD実践が可能となる。子どもたちが社会の一員として課題の解決に参加しその経験をさらなる学びの深まりへとつなげるための理論、フィールドワークやサービス・ラーニングなどの手法を学ぶ。	
			対話的な学びと言語活動	深い学びの根幹には、主体的な運用と対話的な相互作用に関わる「ことば」がある。人間のあらゆる省察と行動にことばが根幹にあることは古来多くの研究者によって明らかにされてきたことであるが、これは教育的営為の遂行にとってもことばを適切に関与させなくてはならないことを意味している。その意味を福祉・倫理・環境、すなわち生態学的妥当性という側面から検討し、激変する現代社会における教育課題への対応を考える。こうしたことばの教育的貢献機能の根拠と背景、特に良質な学習環境を構築する上での「対話」の働きを考察しながら、教育目標（SDGs）としての生態学的多様性・均衡性・持続可能性についての理解も深めていく。	
	学校組織分野	分野必修科目	教育政策の流れと学校論	今後の社会変動の中で、学校を含む公教育のあり方はどのように変化していくことが予想され、その際学校はどのように対応していくことが考えられるのかについて検討する。近年の教育政策の動向を踏まえた上で、今後求められる学校経営の方向性を考察する。特に静岡県および静岡県内市町の教育政策の形成のプロセス及び静岡県の教育政策については、教育委員会等に対する調査・資料収集を行い、その内容を基に、施策の背景や目的等について多角的な視点から比較検討を行うことを通して理解を深める。 (3 武井 敦史・5 島田 桂吾・39 小岱 和代・40 吉澤 勝治)	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
分野科目	学校組織分野	分野必修科目	教育法制度の理論と実際	本科目は、3つのパートから構成する。第1に、教育法制度の理念について理解を深める。日本国憲法を頂点とする教育法体系をふまえた上で、新旧教育基本法を読み比べることで学校教育活動の変化の背景を理解する。第2に、教育活動には法的根拠があることを理解する。具体的には教育方法や生徒指導に関わる法律や通知を調べる作業を通じて、実践への還元の在り方を検討する。第3に、学校安全分野についての理解を深める。具体的には学校事故に関わる事例や判例等について詳しく分析したり、シミュレーションをすることを通じて、これまでの教員としての対応や実践をふり返りながら、改善策について研修教材としてまとめる。 (5 島田 桂吾・39 小岱 和代)	共同
			学校改革の理論とリーダーシップ	学校管理職（候補）および主幹教諭・各種主任等のミドルリーダーを念頭に、学校を改革していくための手立てについて学ぶ。学校の置かれた環境条件や施策等の与件を踏まえた上で、どのようにして改革のシナリオを描き、教職員全体を巻き込んで、改革につなげていくか、リーダーシップの発揮について理論的・実践的に検討する。授業の中では文献による学習により基礎的な理論的背景を踏まえると同時に、様々な学校改革の事例をケースメソッドの方式を用いて集団で討議し、理解を深める。 (3 武井 敦史・39 小岱 和代)	共同
			成人の学習の事例と理論	教職員一人ひとりの成長と、教職員のコミュニティの発達を支援していくにあたって、成人学習理論を基に考えて実践できる、成人学習のリーダーとしての力量の向上を目指す。若手教員の育成に関して、理論と実践を通して力量を形成していくことを試みる。学校づくりに関するアクションリサーチを、成人学習理論の観点から構想・実践していける力量を形成する。成人学習のリーダーとしての力量形成のあり方を学び実践できるようにする。	
			学校と地域の協働	少子高齢化や地方創生が社会的な課題となる中で、新しい時代の教育の実現に向けての学校と地域の在り方について、学校と地域（社会教育）双方の視点で理解を深める。地域とともにある学校づくりや社会に開かれた教育課程の実現に向けてその可能性と課題を追究しつつ、地域と協働した学校経営のための力量を形成する。所属市町における社会教育施設・事業・活動の実際や社会教育主事の実状について学び、その実状に即して地域づくりにつながるような協働のあり方を考え実践していけるような力量を形成する。	
			夢の学校づくり・学校改善への実践論	本科目は、3つのパートから構成する。第1に、これからの教育の在り方を検討するために、これまでの日本における教育制度の歴史について理解を深める。具体的には江戸時代の寺子屋教育から学制改革、戦後教育改革から「ゆとり教育改革」など、日本の教育制度改革を通史的に展望することで現在の立ち位置を確認する。第2に、海外の教育事情について、文献や資料等を通じて理解を深める。海外に目を向けることで、日本の教育事情を俯瞰することをねらいとする。第3に、自らが理想とする「夢の学校づくり」をイメージできるようにする。具体的には「学校改善事例集」としてアクションリサーチの活用戦略をまとめ、実習校や教育委員会へ配布する。 (3 武井 敦史・5 島田 桂吾・39 小岱 和代)	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題 研究	課題研究Ⅰ	本専攻では、各自の目指す教員像に向けて、二年間の学習を進めていく。その中でも、学生の個人的な問題関心に基づいて行われる実習を中心におきつつ、指導教員の指導の下で進めていくのが課題研究である。課題研究Ⅰでは、それまでの学習を振り返りながら、自分自身の目指す教員像、そこに至るために行うべき学習について考えていく。そのための基盤として、先行事例等の整理や問題関心の明確化、追従すべき課題、探究目標の設定と探究方法の決定など、主としてアクションリサーチ等の計画に関わる部分の指導を行う。	
	課題研究Ⅱ	本専攻では、各自の目指す教員像に向けて、二年間の学習を進めていく。その中でも、学生の個人的な問題関心に基づいて行われる実習を中心におきつつ、指導教員の指導の下で進めていくのが課題研究である。課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰに基づいて実施している二年次の実習について検討していく。アクションリサーチ等において、実践や実験・観察などの結果のまとめと分析、その解釈による結論の導き出し方など、主としてアクションリサーチ等の分析とまとめに関わる部分の指導を行う。	

国立大学法人静岡大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
静岡大学				静岡大学				
人文社会科学部				人文社会科学部				
社会学科	70	-	280	社会学科	70	-	280	
言語文化学科	75	-	300	言語文化学科	75	-	300	
法学科	90	3年次 2	364	法学科	90	3年次 2	364	
法学科（夜間主コース）	30	3年次 3	126	法学科（夜間主コース）	30	3年次 3	126	
経済学科	155	-	620	経済学科	155	-	620	
経済学科（夜間主コース）	30	-	120	経済学科（夜間主コース）	30	-	120	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	300	-	1,200	学校教育教員養成課程	300	-	1,200	
情報学部				情報学部				
情報科学科	100	-	400	情報科学科	100	-	400	
行動情報学科	70	-	280	行動情報学科	70	-	280	
情報社会学科	75	-	300	情報社会学科	75	-	300	
理学部				理学部				
数学科	38	-	152	数学科	38	-	152	
物理学科	48	-	192	物理学科	48	-	192	
化学科	52	-	208	化学科	52	-	208	
生物科学科	52	-	208	生物科学科	52	-	208	
地球科学科	50	-	200	地球科学科	50	-	200	
工学部				工学部				
機械工学科	168	-	672	機械工学科	168	-	672	
電気電子工学科	110	-	440	電気電子工学科	110	-	440	
電子物質科学科	110	-	440	電子物質科学科	110	-	440	
化学バイオ工学科	112	-	448	化学バイオ工学科	112	-	448	
数理システム工学科	50	-	200	数理システム工学科	50	-	200	
農学部				農学部				
生物資源科学科	115	3年次 7	474	生物資源科学科	115	3年次 7	474	
応用生命科学科	70	3年次 3	286	応用生命科学科	70	3年次 3	286	
計	1,970	3年次15	7,910	計	1,970	3年次15	7,910	
静岡大学大学院				静岡大学大学院				
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科				
臨床人間科学専攻（M）	11	-	22	臨床人間科学専攻（M）	11	-	22	
比較地域文化専攻（M）	10	-	20	比較地域文化専攻（M）	10	-	20	
経済専攻（M）	15	-	30	経済専攻（M）	15	-	30	
教育学研究科				教育学研究科				
学校教育研究専攻（M）	52	-	104	学校教育研究専攻（M）	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
共同教科開発学専攻（D）	4	-	12	共同教科開発学専攻（D）	4	-	12	
教育実践高度化専攻（P）	20	-	40	教育実践高度化専攻（P）	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
総合科学技術研究科				総合科学技術研究科				
情報学専攻（M）	60	-	120	情報学専攻（M）	45	-	90	研究科の専攻の設置（事前 問い合わせ）
理学専攻（M）	70	-	140	理学専攻（M）	60	-	120	
工学専攻（M）	262	-	524	工学専攻（M）	322	-	644	定員変更（60）
農学専攻（M）	87	-	174	農学専攻（M）	87	-	174	
光医工学研究科				光医工学研究科				
光医工学共同専攻（D）	5	-	15	光医工学共同専攻（D）	5	-	15	
自然科学系教育部				自然科学系教育部				
ナノビジョン工学専攻（D）	10	-	30	ナノビジョン工学専攻（D）	10	-	30	
光・ナノ物質機能専攻（D）	9	-	27	光・ナノ物質機能専攻（D）	9	-	27	
情報科学専攻（D）	11	-	33	情報科学専攻（D）	11	-	33	
環境・エネルギーシステム専攻（D）	7	-	21	環境・エネルギーシステム専攻（D）	7	-	21	
バイオサイエンス専攻（D）	8	-	24	バイオサイエンス専攻（D）	8	-	24	
計	641		1,336	計	674		1,402	